

美専シラバス

2024

bisen Syllabus 2024

ビジュアルデザイン科3年制版 [初版]



学校法人クリエイティブA
長野美術専門学校

美専シラバス

2024

bisen Syllabus 2024

ビジュアルデザイン科3年制版 [初版]

美専シラバス2024【ビジュアルデザイン科3年制学科】 目次

ページ	科目名	代表担当 学科・年次	科目区分	講義種	選択種
p. 1	クリエイティブワーク総論A・B・C・D	全科-1,2,3,4	専門	講義・演習	必修科目/VD3-VA3-CD選択
p. 2	色彩	全科-1	専門	講義・演習	必修科目
p. 3	キャリア講座A	全科-1	一般	講義・演習	選択必修
p. 4	キャリア講座B	全科-2	一般	講義・演習	選択必修
p. 5	ビジネスナレッジAービジネスリテラシー	VD-CD-2	専門	講義・演習	VD3-CD必修/VD2選択
p. 6	ビジネスナレッジBーデザインコンプライアンス	VD3-CD-2	専門	講義・演習	VD3-CD選択
p. 7	マーケティング	全科-2	一般	講義・演習	VD-CD必修/VA選択
p. 8	DTP理論	全科-2,3	専門	講義・演習	選択科目
p. 9	エディトリアルDTP	VD3-CD-2,3,4	専門	講義・演習	必修科目
p. 10	ディスプレイデザインA・B	VD-CD-2,3	専門	講義・演習	選択科目
p. 11	アート研究	全科-2	専門	講義・演習	選択科目
p. 12	コンセプチュアルアート	VD3-VA3-CD-	専門	講義・演習	選択科目
p. 13	映像理論A	VD-CD-1	専門	講義・演習	選択科目
p. 14	映像理論B	全科-2	専門	講義・演習	VD-CD選択必修/VA選択
p. 15	WEB理論	VD-CD-2,3	専門	講義・演習	VD-CD選択必修
p. 16	デザイン研究	VD-CD-1	専門	講義・演習	必修科目
p. 17	ブランドマネージメント	VD-CD-2	専門	講義・演習	選択科目
p. 18	美術学習論	全科-1	専門	講義・演習	VA必修/VD-CD選択必修
p. 19	キャリアデザインA	全科-1	一般	講義・演習	必修科目
p. 20	キャリアデザインB	全科-2	一般	講義・演習	必修科目
p. 21	コピーライティングA	全科-2	専門	講義・演習	VD-CD必修/VA選択
p. 22	コピーライティングB	VD-CD-3	専門	講義・演習	必修科目
p. 23	映像制作入門	CD-VD-1	専門	講義・演習	選択科目
p. 24	映像表現	全科-2,3	専門	講義・演習	選択科目
p. 25	マンガ概論	全科-1	専門	講義・演習	選択科目
p. 26	キャラクター概論	全科-1,VA-2,3	専門	講義・演習	選択科目
p. 27	プロジェクトデザイン基礎1・2・3	VD-CD-1,2,3	専門	講義・演習	必修科目
p. 28	インターンシップA	全科-1	一般	講義・演習	選択科目
p. 29	インターンシップB	全科-2	一般	講義・演習	選択科目
p. 30	WEB表現	全科-2,3	WEBメディア	講義・演習	VD-CD選択必修/VA選択
p. 31	ライン別ゼミA・B・C・D	全科-1,2,3,4	総合	実技	必修科目
p. 32	就職実践	VD-CD-3	総合	実技	選択必修
p. 33	長期インターンシップ A・B	VD-CD-3,4	総合	実技	選択必修
p. 34	自由実践A・B・C・D・E・F・G・H	全科-1,2,3,4	総合	実技	選択科目
p. 35	美術学習論実習A・B・C・D	全科-1,2,3,4	共通	実技	選択科目
p. 36	グラフィックデザイン基礎A	全科-1	デザイン	実技	必修科目
p. 37	グラフィックデザイン基礎B	全科-1	デザイン	実技	必修科目
p. 38	グラフィックデザイン基礎C	全科-1	デザイン	実技	必修科目
p. 39	ビジュアル表現	全科-1	共通	実技	必修科目
p. 40	6次デザインA・B・C	VD-CD-2,3,4	デザイン	実技	選択科目
p. 41	タイポグラフィ1	全科-1	デザイン	実技	VD-CD必修/VA選択
p. 42	タイポグラフィ2	VD-CD-2,3	デザイン	実技	VD3-CD必修/VD2選択
p. 43	グラフィックデザインA・B・C	VD-CD-2,3,4	デザイン	実技	選択科目
p. 44	レイアウトデザインA	VD-CD-2	デザイン	実技	必修科目
p. 45	レイアウトデザインB	VD-CD-3	デザイン	実技	必修科目
p. 46	ムービーメイキングA・B・C	VD-CD-2,3,4	映像	実技	選択科目
p. 47	WEB制作1・2	VD-CD-2,3,4	WEBメディア	実技	選択科目
p. 48	写真表現A・B・C	VD-CD-2,3,4	映像	実技	選択科目
p. 49	イラストレーションA・B・C	VD-CD-2,3,4	イラストレーション	実技	選択科目
p. 50	描写入門	VD-CD-1	共通	実技	VD必修/CD選択必修
p. 51	描写1	VD-CD-1	共通	実技	VD必修/CD選択必修
p. 52	描写2	VD3-CD-2	共通	実技	VD必修/CD選択
p. 53	描画表現A	VD3-VA3-CD-	共通	実技	VD必修/VA・CD選択
p. 54	描画表現B	VA-CD-2,3	共通	実技	選択科目
p. 55	総合制作1・2	全科-1,2	共通	実技	必修科目
p. 56	総合研究	全科-3	共通	実技	必修科目
p. 57	プロモーションワークA・B・C・D	全科-1,2,3,4	総合	実技	必修科目/VD3-VA3-CD選択
p. 58	プロモーション講座A・B	全科-1,2	総合	実技	選択必修

授業科目名	クリエイティブワーク総論A・B・C・D		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	1・2・3・4年次	2(32)
必修・選択	必修(C・Dは選択)	その他履修条件	A…全科の1年次 / B…全科の2年次 / C…VA3・VD3・CDの3年次 / D…CDの4年次に配当					
開講期	通年	代表曜日・時限	月1・2	資格対応	—			
担当教員	小林勝彦・松本直樹						講師の実務 経験	20年 アートディレク 以上 ター
授業概要	毎回、異なる本校の教員や外部講師を、約月1回のペースでゲストに呼び、その教員の職業やこれまでのキャリアについてのプレゼンテーションを受けま す。そのことで、自分自身が履修している科目が何のために必要なのか、将来どのように結びついていくのかを考え、クリエイティブの学びの理解を深 めます。ゲストとする講師の方々は、クリエイティブの各分野で、専門の職能と職域を持っています。自分の進路にとって得難い「道しるべ」となるはず です。							
授業方法	講義中心の授業です。毎回、授業で取り扱うトピックスは異なります。これに合わせ授業担当講師の他に1～3名ほどのゲスト講師をお招きします。必要に 応じてワークシートを配布し、基本的に授業内での完成をめざします。							
授業目標	知識・創意・観点	講義やワークシートを通し、考えや気づきをまとめる						○
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	ゲスト講師に質問などをし、積極的に授業へ参加する						◎
	目的意識・共感性	各講師の思想や考え、あるいは現場でのエピソードなどを通しワーク（仕事）について理解を深める						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計（点）	
	ワークシートやその他提出物		20	—	20	20	60	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	40	—	40	
	合計（点）		20	—	60	20	100（点）	
評価の特記事 項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 2/3以上の出席を満たさない場合、補講への出席や追加課題の提出を求めます。							
テキスト・教 材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション、および本校講師を招き授業を行う							
2回～4回	随時、ゲスト講師を招く							
5・6回	総合制作のための集中講座							
7回～8回	随時、ゲスト講師を招く							
備考								
時間外での学 修	授業において取り上げたトピックスについて、各自、考えを深めてください。							
講師の実務経 験と授業の関 係	アートディレクターの観点から、様々なプロをゲスト講師として招聘し、現場で要請される様々な視点や考えを講義を通して学びます。							
受講生への メッセージ	毎回、様々なジャンルのプロフェッショナルをお招きします。楽しみにしててください。							

授業科目名	色彩		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	共通	—	全科共通	1年次	1(16)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火・3	資格対応	色彩士検定3級			
担当教員	松本小百合						講師の実務 経験	—
授業概要	プロのデザイナーやアーティストは、正しい理論の裏付けを持って色彩にたずさわることが必要です。この授業では、日本色彩研究所の研究に基づいて行われている「ADEC色彩士検定」の教材を用い、色が知覚されるしくみから、色彩調和に必要な配色技法までを講義と演習により学びます。							
授業方法	毎回テキストにそって講義を行い、必要な場合演習も行います。							
授業目標	知識・創意・観点	どんな演習課題も丁寧に仕上げる						○
	技能・成果	ADEC色彩士検定3級取得に挑戦						○
	意欲・自主性・姿勢	この授業で得た知識を他の授業や個人の創作につなげようという姿勢を持ち全8回の授業に出席						◎
	目的意識・共感性	ADEC色彩士検定3級相当の基礎理論の習得						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	制作物		10	10	—	10	30	
	受講態度		—	—	20	—	20	
	授業内テスト		—	—	—	50	50	
合計(点)		10	10	20	60	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。出席と授業最終日に行うADEC色彩士検定3級模擬試験の結果が評価に大きく関わる。授業内テストの結果が、規定の点数に満たない場合は、別途補講を受講するものとする。							
テキスト・教材	『Color Master BASIC』『色彩士検定3級』 ノートパソコン、演習に必要な画材(アクリルガッシュ等)はその都度事前にお知らせする							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション、講義・演習 第1章「色のなりたち」							
2回	講義・演習 第2章「混色」							
3回	講義・演習 第3章「色の表示方法」							
4回	講義・演習 第4章「色の知覚的効果」							
5回	講義・演習「補色対の調色」							
6回	講義・演習 第5章「色の心理的効果」							
7回	講義・演習 第6章「色彩調和」							
8回	ADEC色彩士検定3級模擬試験							
備考								
時間外での学修	授業内で理解できなかった内容は、時間外に教科書を理解できるまで読み返していただくこと。							
受講生へのメッセージ	色を感じ伝えることはとても楽しいことです。その楽しみを知ると様々なところで活用したくなります！自分以外の人に色を正確に伝えたり、理論を踏まえたビジュアル表現ができるよう基礎知識をしっかり学んでいきましょう。							

授業科目名	キャリア講座A			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	全科共通	1年次	1(16)
必修・選択	条件付き選択必修	その他履修条件	【履修上の注意】「キャリア講座A」は、「キャリアデザインA」を履修する過程で困難が生じた際、担当講師等との面談を経て、履修することができます。					
開講期	通年	代表曜日・時限	月・1	資格対応	日本語検定3級			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(=デザイン)し、実現していくことを指します。キャリア講座Aは自身のキャリアについて考え、自己探求を目的とします。 また、授業を通して自分軸、共感性や主体性などの非認知能力を養います。							
授業方法	個人、少人数グループで学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。							
授業目標	知識・創意・観点	自分自身の考えを相手に伝える 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ					◎	
	技能・成果	-					△	
	意欲・自主性・姿勢	自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す					◎	
	目的意識・共感性	正しい日本語を理解し、日本語検定3級認定を目指す。授業内での指示や連絡を正確に理解する					○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	提出物		10	—	5	5	20	
	資格試験		20	—	—	—	20	
	グループワーク		10	—	15	5	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	—	20	—	30	
合計(点)		50	—	40	10	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～と なります。 日本語検定の受験、第8回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	未来ノート・日本語検定公式練習問題集3級・日本語検定受験料3,800円・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【積極的傾聴・効果的質問】キャリア講座Aの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。[発信力・傾聴力]							
第2回	【日本語検定対策①】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]							
第3回	【日本語検定対策②】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]							
第4回	【日本語検定対策③】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]							
第5回	【日本語検定対策④】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]							
第6回 11月8日 (金)	日本語検定3級受験日							
第7回	【就職準備セミナー】就職活動について知り、準備をする。							
第8回	【ふりかえり】キャリア講座Aをふりかえり、自身の変化に気付く。							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。							
時間外での学修	日本語検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	自分自身のキャリアをデザインするには自己を探究し、自己理解を深めることが第一歩です。自己を理解し、自分自身を人に伝えられるようになりましょう。キャリア講座Aの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							

授業科目名	キャリア講座B			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	全科共通	2年次	1(16)
必修・選択	条件付き選択必修	その他履修条件	【履修上の注意】「キャリア講座B」は、「キャリアデザインB」を履修する過程で困難が生じた際、担当講師等との面談を経て、履修することができます。					
開講期	通年	代表曜日・時限	月・2	資格対応	ビジネス能力検定2級			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(=デザイン)し、実現していくことを指します。キャリア講座Bはキャリア講座Aに引き続き自身のキャリアについて考え、自己探求をし、さらに人間力を養うことを目的とします。 また、授業を通して自分軸、共感性や主体性などの非認知能力を養います。							
授業方法	個人、少人数グループで学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。							
授業目標	知識・創意・観点	自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を学ぶ 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ					◎	
	技能・成果	-					△	
	意欲・自主性・姿勢	自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す					◎	
	目的意識・共感性	社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学び、ビジネス能力検定3級合格を目指す 授業内での指示や連絡を正確に理解する					○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	提出物		10	—	5	5	20	
	資格試験		20	—	—	—	20	
	グループワーク		10	—	15	5	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	—	20	—	30	
合計(点)		50	—	40	10	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～とあります。 ビジネス能力検定の受験、第8回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 ※キャリア講座Aにて日本語検定を受験していない学生は、上記成績評価の要件に11月10日(金)日本語検定の受験も含まれます。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト・ビジネス能力検定受験料3,000円・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【積極的傾聴・効果的質問】キャリア講座Bの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。【発信力・傾聴力】							
第2回～第4回	【ビジネス能力検定対策①②③】社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学ぶ。【課題発見力・規律性】							
第5回 6月3日(月)	ビジネス能力検定3級受験日							
第6回	【経済と金融】金銭・経済・投資などのお金に関連する知識をつけ、向き合い方を学ぶ。【規律性】							
第7回	【新社会人ワーキングセミナー】労働基準法を中心とした労働関係の基礎知識や、新社会人の心構え等を学ぶ。【規律性】							
第8回	【ふりかえり】キャリア講座Bをふりかえり、自身の変化に気付く。【課題発見力・状況把握力】							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。							
時間外での学修	ビジネス能力検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	卒業後の自分自身を意識し、自分で道を切り拓いていける力を身につけていきましょう。キャリア講座Bの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							

授業科目名	ビジネスナレッジAービジネスリテラシー		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時 間)
			講義・演習	一般	-	VD・CD	2・3年次	2(32)
必修・選択	VD3・CD必修/VD2選択	その他履修条件	-					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2	資格対応	-			

担当教員	和田 邦彦						講師の実 務経験	○
------	-------	--	--	--	--	--	-------------	---

授業概要	各業界・分野で活躍されている方を講師にお願いして、その活動の現状や仕事をしていく際に大切なことなど講義していただく。将来、仕事(ビジネス)をしていく際に必要とされる知識・能力を会得するためのヒントを感じ取ってくれることを目標としている。就職活動やビジネスに関わるイメージを持てるようにビジネススキル・マナーのセミナー(ワークショップ)形式の授業展開もある。							
------	--	--	--	--	--	--	--	--

授業方法	2時限連続の時間があることで外部講師を招聘して講演会形式の講座を開講する。(映像機器の準備・打合せのために待機時間も含まれます)講演会開始時刻までは講演のためのガイダンスがあったり、講師の業界等についての情報検索など事前学習の時間となる。出欠確認は授業開始時に入力。講演後に質疑応答と課題の時間を設ける。課題は講演のレポート・感想など。授業終了時に提出をすることで授業日に完結させる。							
------	--	--	--	--	--	--	--	--

授業目標	知識・創意・観点	「ビジネスとは？」という視点から事例について考え判断してまとめる	◎
	技能・成果	ビジネスに関わる知識等を得ることでアグレッシブに仕事をしていく自信・情熱を育成する	○
	意欲・自主性・姿勢	「ビジネスとは？」という興味・関心を持ち、主体的に考察することや学ぶ意欲を醸成する	◎
	目的意識・共感性	ビジネスパーソンとしてビジネス活動をしていく際に必要とされる知識・技術を修得する	○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価	評価方法	評価の観点				合計(点)
		知識・創意・ 観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・ 共感性	
	課題の完成度	10	10	20	10	50
	レポート(課題提出の有無・遅延)	-	-	10	10	20
	受講状況(講演・フィールドワークを含む)	10	-	10	10	30
	合計(点)	20	10	40	30	100(点)

評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。課題(レポート・感想)は必ず保存して自己管理する。レポートは期日を決め提出を求めます。成績評価に反映されます。リモート授業の際の受講態度・意欲については、各自が自律して真摯におこなっているものと期待します。							
---------	---	--	--	--	--	--	--	--

テキスト・教材	購入するテキストはない							
---------	-------------	--	--	--	--	--	--	--

その他参考書	講師からの配布資料他							
--------	------------	--	--	--	--	--	--	--

授業計画	
実施回・期間	授業内容・目標
1・2回	・オリエンテーション:授業計画、講演会について、ビジネスとは ・外部講師による講演:教育カウンセラー・キャリアコンサルタント 演題:コミュニケーションとビジネスマナー(仮)
3・4回	・外部講師による講演:キャリアコンサルタント・産業カウンセラー 演題:自己理解ー自分を発見するー(仮)
5・6回	・外部講師による講演:信州プロレスの創設者 演題:未定
7・8回	・外部講師による講演:長野に本社のある学校向け教育図書、警察・消防向け法規書で社会に貢献する出版会社 顧問 演題:未定
9・10回	・外部講師による講演:「デザイン思考×テクノロジーで、顧客と社員にワクワク体験を」ITを通してお客様に発見と感動を」コンセプトに活動する企業 社長 演題:未定
11・12回	・外部講師による講演:証券会社によるセミナー 若手社員が自作の教材でプレゼンテーション 演題:財産形成セミナー「経済と投資」(仮)
13・14回	・外部講師による講演:長野市松代町在住の画家 演題:ARTによる地域の活性化(仮)
15・16回	・外部講師による講演:アパレルメーカー(総務人事)から物流業界(総務)勤務の経験談・伝えたいことなど 演題:「メンタルヘルス的なこと」「社会に出るための準備」について(仮)
備考	※講演は講師の方に自由なテーマをお願いしています。講師は多忙な方ですので変更になることもあります。講演中止の際はフィールドワークや映像資料の視聴による授業になることもあります。(事前連絡)

時間外での学修	ビジネス活動の一員として将来、就業・起業している自分をイメージして、世の中の変化を観察判断しようという意識が大切です。さまざまな分野でビジネス活動をされている講師の経験や示唆は「壁」や「岐路」に向かいあったときに判断や行動の参考になることもあるかも知れません。日常生活(学校生活・社会生活・消費生活)の中で先達の話や傾聴することで学修の好機ともなります。							
---------	---	--	--	--	--	--	--	--

受講生へのメッセージ	何ごとにも問題意識(疑問、関心、興味)を持つことが大切だと思います。「○○○はこういうことなのかもしれない？」という仮説をたてビジネス活動を観察し探求しながら社会生活をして欲しい。企業に就業するだけでなく、起業やダブルワークなど時代を意識した生活やワークライフバランスについて模索することも必要です。多種多様な分野で活動されている方の講演を計画しました。「何かを得よう」「ヒントをもらおう」という姿勢で参加してください。							
------------	--	--	--	--	--	--	--	--

授業科目名	ビジネスナレッジBーデザインコンプライアンス		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	一般	—	VD3・CD	3・4年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	土1	資格対応	—			
担当教員	和田邦彦						講師の実務 経験	○
授業概要	知的財産の種類、その権利関係や権利の侵害等を題材にして展開していきます。 創作活動をしていく上でのコンプライアンス(法令遵守)についても学習をします。 昨今の知的財産権の侵害やグローバルな経済社会での出来事等、リアルタイムな話題にも触れていく。							
授業方法	授業は講義形式で行う、映像教材の視聴を交えながら展開していく。授業展開の中で学校外に出て調査や外部講師の招聘も予定している。 配布する記入ノート(用紙)等に各自がまとめていく。調査レポート、感想文、総括として記入ノートの提出があります。							
授業目標	知識・創意・観点	取り扱う教材(事例)について熟考、判断しながらまとめる						◎
	技能・成果	創作活動の際の法令遵守を意識できる能力を涵養する						○
	意欲・自主性・姿勢	授業内容に関心をもって意欲的に学ぶ姿勢で臨む						◎
	目的意識・共感性	知的財産権の種類、概要を理解して知識をして蓄積する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達目標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	記入ノートの記述内容		10	—	10	10	30	
	まとめ(提出)		—	10	10	20	40	
	受講状況(外部講師の講演を含む)		10	—	10	10	30	
合計(点)		20	10	30	40	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となり。配布する記入ノートの記述の充実度が評価に反映します。提出がないと評価できません。							
テキスト・教材	工業所有権情報-研修館「産業財産権標準テキスト 総合編」・「知的創造活動と知的財産」等や映像資料を提示による。 配布資料(自主教材)							
その他参考書	特にありませんが、関連書籍を各自が購入し蔵書されることを望みます。							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	・知的財産権の概要、知的創造活動と知的財産 生活を豊かにする知的財産 ・知的財産権について 特許(パテント)とは、実用新案(考案)とは、特許法・実用新案法(出願、登録、期間)							
2回	・知的財産権について 著作権 ビデオ映像資料「著作権入門」視聴 著作隣接権 著作権法(出願、登録、期間) ・デザインって何? デザインの意義 意匠権(デザイン)、意匠法(出願、登録、期間)							
3回	・意匠登録制度とデザイン 自分のデザインを知的所有権にしよう ・商標って何? 商標の歴史、役割、ブランド(商標からブランドへ)、ブランド力 ・商標権(トレードマーク) 商標法(出願、登録、期間)							
4回	・商標について ネーミング、音商標、位置商標、動き商標、ホログラム商標 ・サービスマークの保護、タイプフェイスの保護、商品化権(キャラクター)、著作権(コピーライト)の登録・知的財産権全般							
5回	新しい権利の保護 インターネットと知的財産 ・知的財産(商標、意匠)調査(フィールドワーク:学校外で調査) 調査レポート まとめ 提出							
6回	・商標、キャラクター、タイプフェイス、サービスマーク、ネーミング のいずれかを創作してみよう (用紙、用具は各自準備)							
7回	※外部講師(予定)、聴講メモ・感想文の提出							
8回	・知的財産権とコンプライアンス 独占禁止法・まとめ ・記入ノート完成の確認完成・提出							
備考	・フィールドワークや外部講師(6回、7回)との調整から授業展開の変更等があることもある。							
時間外での学修	広い意味で捉えるとコンプライアンス違反は企業活動のみで起こることだけでなく、個人が気づかず起こしてしまうこともあります。 知的財産権については、普段、利用する店舗や商品等が具体的な教材として豊富に存在しています。観察、注視することで机上の学習ではできない商標(ブランド)、ネーミング、コピー、意匠デザイン、アイデア等々発見があります。							
受講生へのメッセージ	クリエイティブな活動をしていくうえで守らなければならないことや、あるいは生活者として守らなければならないルール(社会規範)がある。 一部の人びとによる稚拙な行動(違法行為)がマスコミに取り上げられている。そんな事象を批判的に捉えられる感性をもって行動してほしい。							

授業科目名	マーケティング		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	一般	—	全科共通	2年次	1(16)
必修・選択	VD・CD必修/VA選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月3	資格対応	—			
担当教員	和田邦彦						講師の実務 経験	○
授業概要	「マーケティング」はビジネスだけのものではなく、さまざま分野でも応用されています。「マーケティング」を知ることで創作のヒントを得て活用できること、『SWOT分析』などのフレームワークを利用して「私たちを取りまく課題や問題」を解決する方法を学びます。							
授業方法	「マーケティング」の基本的なものを取り上げ、映像資料などを紹介しながらの講義を中心とした授業展開をしていきます。課題は3題(3回)予定しています。提出期限があります。課題(作品)は授業内に紹介して学生相互で共有します。ワークシート(記入ノート)に各自がまとめ学修してもらいます。							
授業目標	知識・創意・観点	「マーケティング」の手法を創作活動をはじめさまざま場面に活かせることを実感する						◎
	技能・成果	社会の変化や行動変化に新しい視点を手に入れ、創作に活かす能力を育成する						○
	意欲・自主性・姿勢	マーケティングに興味・関心を持ち意欲的に自学・活用する意欲をもてる						◎
	目的意識・共感性	「マーケティング」の概念を理解し知識として蓄積する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点			知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)
	評価方法							
	課題の完成度			10	10	20	10	50
	まとめ(課題提出の遅延・有無)			—	10	10	10	30
	受講状況(出席等を含む)			—	—	10	10	20
合計(点)			10	20	40	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。課題はワークシートの記入。配付資料の整理・管理する。まとめの際にはワークシートの提出を求めます。成績評価に反映します。							
テキスト・教材	「通勤大学MBA2 マーケティング(新版)」通勤大学文庫 ワークシート(記入ノート)＝配布あるいは形式を指示							
その他参考書	適宜配布する							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	マーケティングとは。マーケティングの必要性、各分野でのマーケティング プロセス 4P STP							
2回	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング							
3回	SWOT分析とは:4つ視点からの分析 SWOT分析で各自の「S:強み」「W:弱み」「O:機会」「T:脅威」を探る							
4回	「S:強み」「W:弱み」「O:機会」「T:脅威」からクロスSWOTを活用して分析する							
5回	マーケティングの変遷、目的、定義。							
6回	マーケティングリサーチ 問題発見 調査仮説							
7回	マーケティングと知的財産権							
8回	まとめ 提出物の確認							
備考	8回の授業展開の中で、学ぶ内容(回)の順序は変わっていくこともある。							
時間外での学修	現在は「マーケティング」が話題になっています。例えば、商品開発や商品のランキング、インターネットショッピング、CM等、店舗における商品陳列・POP等にもマーケティングの手法が活用されています。日常の消費行動の際に「マーケティングとは？」という視点で考察することがリアルタイムな動向を知ることができる。							
受講生へのメッセージ	マーケティングの概念・手法を学ぶことで、創作活動における発想の一助となると思います。世の中を見渡すことが大切です。あらゆる分野への興味・関心、探究心が知識・能力の蓄積をもたらす創作の意欲にも繋がります。							

授業科目名	DTP理論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	2・3年次	2(32)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木3	資格対応	Illustrator/Photoshopクリエイター能力認定試験			
担当教員	山崎澄子					講師の実務 経験	15年 以上	デザイン
授業概要	IllustratorとPhotoshopの機能を調べて使いこなせるようにします。認定試験にむけて様々な模擬問題を解いていきます。							
授業方法	Illustrator/Photoshopクリエイター能力認定試験の模擬問題。Illustrator/Photoshop応用的な使い方の提示							
授業目標	知識・創意・観点	自分で操作方法や手順を考えて問題を解く						◎
	技能・成果	提示されたサンプルと同じものを作成する						○
	意欲・自主性・姿勢	自分で問題を解き進める。グループワークに積極的に関わる						○
	目的意識・共感性	グラフィックアプリケーションの特性を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
		Illustrator/Photoshopクリエイター能力認定試験を受験	15	10	—	10	35	
		Illustrator/Photoshopクリエイター能力認定試験のいずれかに合格	15	10	—	10	35	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	20	10	30	
		合計(点)	30	20	20	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～65点、良:64.5点～50点、可:49点～40点、不可:39点～となります。							
テキスト・教材	『Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集』、『Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集』							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	グラフィックデザイン基礎Aの復習・PDFについて							
2回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
3回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
4回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
5回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
6回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
7回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
8回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
9回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
10回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
11回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
12回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
13回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
14回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
15回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
16回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
備考								
時間外での学修	授業中に終わらなかった問題は時間外に解いて手順を理解しておいて下さい。							
講師の実務経験と授業の関係	グラフィックやエディトリアルデザインの現場で必要とされる基本スキルや実践的な考え方を現役のプロから学びます。							
受講生へのメッセージ	グラフィックデザイン基礎Aで学習した内容の応用です。操作は難しくなりますが、楽しい作業でもあります。グラフィックアプリケーションのさまざまな機能を発見して楽しんでください。							

授業科目名	エディトリアルDTP		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD3・CD	2・3・4年次	2(32)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木4	資格対応	—			
担当教員	山崎澄子					講師の実務経験	20年以上	デザイン
授業概要	書籍・雑誌などのページもののDTPを学びます。 InDesignの操作方法を習得します。							
授業方法	はじめにInDesignの基本的な操作を復習します。 海外旅行のパンフレットと旅程表のデザインを考え、レイアウトデザインして仕上げます。							
授業目標	知識・創意・観点	本の企画から原稿制作、デザイン、レイアウトまで						◎
	技能・成果	InDesignの操作						○
	意欲・自主性・姿勢	自発的な企画アイデア出し、デザイン案作成。スケジューリング						◎
	目的意識・共感性	書籍・雑誌の制作工程						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達目標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
		制作物	20	10	—	10	40	
		途中の進捗チェック	—	—	10	—	10	
		自発的なアイデア出し	10	—	20	—	30	
		スケジューリング	20	—	—	—	20	
		合計(点)	50	10	30	10	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	『InDesign/Illustratorで学ぶ レイアウト&ブックデザインの教科書』							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	InDesign操作の復習(課題をだす・自宅で作業)							
2回	『InDesign/Illustratorで学ぶ レイアウト&ブックデザインの教科書』をもとに本の構成や政策の流れを学ぶ							
3回	スケジュールを決め、フォーマットデザインのラフを作る							
4回～7回	ラフにもとづき、DTP							
8回	夏期授業期間の制作課題チェック 下記制作期間にすべての原稿を揃える							
9回～15回	InDesignでDTP&チェック							
16回	授業のまとめ							
備考								
時間外での学修	ページ物の制作は、時間外に進めるのが主となります。授業時間にはチェックと次の作業の確認をします。							
講師の実務経験と授業の関係	エディトリアルデザインの現場で必要とされる基本スキルや、ワークフローなどの具体的知識を現役のプロから学びます。							
受講生へのメッセージ	パンフレット(二つ折り)とページものを作ります。ページものを制作する基本的な知識と、InDesignの操作を学びます。							

授業科目名	ディスプレイデザイン A・B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD・CD	2・3年次	2(32)
必修・選択	選択	その他履修条件	A…VD2・VD3・CDの2年次/B…VD3・CDの3年次に配当					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	火1・2	資格対応	—			
担当教員	横山美智子					講師の実務 経験	20年 ディスプレイデ 以上 ザイナー	
授業概要	<p>情報化時代といわれる現代社会では、流通経路を的確に築きあげ、効果的な情報を与え、さらに、その時代の流れに乗ったイメージ操作と、消費者の心をとらえる販売活動が行われない限り商品は売れるものではありません。</p> <p>商品を展開する売場空間の活性化を図るため、単に「きれいに物(商品)を並べる」という事ではなく、幅広い知識と造形力・感性・時代情報が必須となります。授業では、こうしたことを踏まえた講義と演習を通して、専門の知識・技術・アイデア・デザイン・クリエイティブの総合的な力をつけた「プロデュース出来る人材」の育成を目指します。</p>							
授業方法	<p>テキストや実際の仕事の資料を参考にし、売り場づくりの基礎知識を学びます。また、ラッピング等の演出テクニック、街に出てのVMDマップ(ショップリサーチ)や、校内の空間を自由に使い簡単なディスプレイを実施し、それにそった「演出計画書」を制作します。</p>							
授業目標	知識・創意・観点	デザイナーのプランニングや企画が知識や言葉に留まらず、実践面(現場)でも浸透し実行できるVMDのスペシャリストを目指す					◎	
	技能・成果	ディスプレイデザイン・VP(ビジュアルプレゼンテーション)の基礎技術を学ぶ					◎	
	意欲・自主性・姿勢	流通関連分野で幅広く活躍できることを目指す					◎	
	目的意識・共感性	VMDの専門的な用語や基礎知識を習得し現場を完成させていく行程を学ぶ					◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	制作物①「ショップリサーチ」		10	10	10	5	35	
	制作物②「演出計画指示書」		10	10	10	5	35	
	受講態度(出席等を含む)		5	5	10	10	30	
合計(点)		25	25	30	20	100(点)		
評価の特記事項	<p>成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。</p> <p>「ショップリサーチ」「演出計画書」の作成を通して、全店統一とそれを総合的にプロデュースする力を身につけて、売り上げを伸ばし、ケーススタディーを含めて専門的な知識や技術、確認修正の手法を学び得たかどうか、又、プロを目指す人として基本的な対応をする事が出来るかどうかにも同時に評価していきます。</p>							
テキスト・教材	『ビジュアル版 VMD 新テキスト』、実技に伴う仕器・媒体・ラッピング材等は各自(2500円程度)、必要プリントは授業にて配布。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	ディスプレイ・VP・VMDのしくみと管理/PP・IPの展開ポイント							
第2回	売り場の要素と基本事項/空間構成の考え方/媒体配置基準と扱い方							
第3回	売り場作りの仕組みと実践/ショップリサーチの制作							
第4回	ビジュアルプレゼンテーション、テクニックの基本/演出計画の進め方							
第5回	演出小物のテクニック(ギトラッピング・布・リボン等)/ショップリサーチ提出							
第6回	空間構成・構図の分析とテクニック							
第7回	演出計画指示書の制作に伴う演出物の制作とディスプレイ→写真撮影							
第8回	演出計画指示書のフォローと制作→提出							
備考	評価課題 ① ショップリサーチ ② 演出計画指示書							
時間外での学修	VMD(ディスプレイ)の意味と意義・業務内容の基本を理解した上で「商空間」がどのように成り立っているのか?お客様は何を求め来店するのか?真の「売り場」を作るという視点に立ち、いつもの街やショップを歩いてみて下さい。きっと今までとは違った意味で、どうしてその方法が良いのか、何故してはいけないのか具体的に覚えてくるはずです。							
講師の実務経験と授業の関係	ディスプレイデザイナーとしての講師の実務経験から、実践的な演習課題を出題します。これを通じて学生は「使える」ディスプレイデザインを学びます。現場においては、様々なプロたちの経験が集大成され、ひとつの「商空間」が立ち現れるのです。ですので授業では、まずは一人の「プロフェッショナル」として現場に関わる為の条件を伝えます。							
受講生へのメッセージ	本科目との出会いの中で、幅広い知識・技術と研ぎ澄まされた感性を身につけて、それぞれの分野でプロとして活躍できるすばらしい人材となっただくことを願っています。							

授業科目名	アート研究		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	2・3年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木1	資格対応	美術検定4級			
担当教員	松本直樹						講師の実務 経験	—
授業概要	毎回、各時代の名作といわれる美術作品の中からピックアップし、その主題や歴史的な背景、技法やコンセプトなど、基本的な鑑賞ポイントなどを一緒に確認していきます。講義で取り上げる作品は美術検定4級に基づき、さらに美術検定4級の取得をめざします。							
授業方法	講義中心の授業です。授業内では試験対策として問題を解いき、これに応える形で授業を進行していきます。また授業最終回では「美術検定4級」試験を受験します。							
授業目標	知識・創意・観点	作品を通し観察眼を鍛え、アート全般に対する批評力を身につける						○
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	参考資料のリサーチなど積極的におこなう						◎
	目的意識・共感性	レポートや演習課題に取り組み、それぞれの作品に対する理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
		美術検定4級取得	20	—	—	20	40	
		その他提出物	—	—	—	20	20	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	40	—	40	
		合計(点)	20	—	40	40	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』、その他必要により配布							
その他参考書	『この絵、誰の絵? 100の名作で西洋・日本美術入門』、『はじめて学ぶ美術の歴史 一問一答 美術検定4級練習問題』							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション/「美術」について/技法Ⅰ(造形の種類やその製造法)							
2回	技法Ⅱ(造形の種類やその製造法)/西洋美術Ⅰ							
3回	西洋美術Ⅲ							
4回	西洋美術Ⅳ							
5回	現代美術							
6回	日本美術							
7回	アート研究まとめ							
8回	美術検定試験							
備考								
時間外での学修	参考資料なども使用し、試験に向けて各自自学を進めてください。							
受講生へのメッセージ	美術作品の読み解き方を学び、観察眼を鍛えることは「アートを鑑賞する」という枠をこえ、自分自身の制作を進める上でも重要な能力となるでしょう。							

授業科目名	コンセプチュアルアート		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VA3・VD3・CD	3年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月3	資格対応	—			
担当教員	松本直樹						講師の実務 経験	—
授業概要	「コンセプチュアルアート」とは1960年代のアートにおける世界的な動向の名称です。日本では「概念芸術」や「観念芸術」と訳されたりもしています。アート作品は視覚的に捉えられるものだけではありません。本授業では、アート作品と呼ばれるものが、果たしてどのように形作られ、その表現が決定されたのか、そしてどう受容されたのか、「コンセプト」、「概念」や「観念」そして「知覚」というキーワードをもとに探っていきます。							
授業方法	講義中心の授業です。「コンセプチュアルアート」は60年代の美術動向の名称ですが、その年代に限らず、幅広く紹介していきます。レポートによる課題などがあります。							
授業目標	知識・創意・観点	作品を通し観察眼を鍛え、アート全般に対する批評力を身につける						○
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	参考資料のリサーチなど積極的をおこなう						◎
	目的意識・共感性	概念操作や知覚の操作など、視覚だけにとまらない作品の表現を知る						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
		レポートやその他提出物	20	—	20	30	70	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	30	—	30	
		合計(点)	20	—	50	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書	末永 照和、早見 堯 他『増補新装 カラー版 20世紀の美術』、暮沢 剛巳(編)『現代美術を知るクリティカル・ワークス』							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション/「概念」・「知覚」について							
2回	「観る」とは何か I							
3回	「観る」とは何か II							
4回	見えないものの世界							
5回	「空間」と「時間」、「平面」と「均衡」							
6回	あまりにも「具体的」なコンセプト							
7回	メタ技術							
8回	コンセプチュアルアートまとめ							
備考								
時間外での学修	授業において紹介した作家、作品、その他キーワードをあらためてリサーチし、思考や見識を深めてください。							
受講生へのメッセージ	受講生のみなさんの興味も聞きながら、授業を進行していきます。							

授業科目名	映像理論A		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD・CD	1・2年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件		—				
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	水2	資格対応	—			
担当教員	小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	「映画」を鑑賞するという行為を通して「考える力」と「伝える力」を養う 考える力とは、物事を様々な角度から読み解き、その本質を捉え判断する力であり 伝える力とは、自身の思考を「他者」の共感を呼ぶ文字や言葉に置き換えて発する力である。							
授業方法	映画作品の鑑賞を行う。 次にその内容を適当な観点から分析し、レポートにまとめる。 最後に内、レポートの内容をまとめてグループの中で発表する。							
授業目標	知識・創意・観点	様々な知識や理論の存在に目をむけることができる						○
	技能・成果	批判的思考と、それを言語化・伝達することができる資質を養う						◎
	意欲・自主性・姿勢	自身の思考のみならず、他者のそれに対しても積極的に向き合う姿勢を形作る						○
	目的意識・共感性	様々な表現に対して開かれた視野と感受性の獲得を目指す						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	レポートの提出		—	15	—	15	30	
	グループワークへの取り組み		10	15	10	15	50	
	受講態度(出席等を含む)		10	—	10	—	20	
合計(点)		20	30	20	30	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。							
テキスト・教材	必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	講師自己紹介 / 授業オリエンテーション / 課題について / 分析方法について							
第2回	鑑賞① 『キートンのカメラマン』 (1928年)							
第3回	分析①							
第4回	鑑賞② 『遊星よりの物体X』 (1951年)							
第5回	分析②							
第6回	鑑賞③ 『攻殻機動隊 GHOST IN THE SHELL』 (1995年)							
第7回	分析③							
第8回	授業ふりかえり							
備考	第1回では、当授業の核心となる内容を取り扱います。単位取得を目指すのであれば、出席は必須です。							
時間外での学修	映画作品の鑑賞は授業時間内で終了することを企図していますが、授業の進捗状況により取まらないケースも想定されます。 その場合は、各個人で時間外に視聴していただくこととなりますのでご了承下さい。 分析を行う授業回は、対象の作品をすでに鑑賞済みであるという前提の下に進行します。							
受講生へのメッセージ	多くの表現に触れながら、自身の考えとクリエイティビティを深めましょう！							

授業科目名	映像理論B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	-	全科共通	2・3年次	2(32)
必修・選択	条件選択	その他履修条件	「ムービーメイキング」、「写真表現」を履修する場合は必須					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	月4	資格対応	-			
担当教員	吉田章一					講師の実務経験	10年 映像ディレクター	
授業概要	映像クリエイターが制作現場で必要となる基礎理論の修得を目標に、映像の様々な表現方法が何故必要とされてきたのか、それをどのように使って自分の表現とするのか、映像クリエイターとして現場で必要となる基礎理論を、映画史概要と映像制作の流れから始めて映像表現のための基礎知識や基本的な手法を学びます。							
授業方法	映像制作に必要な理論を年代別に具体例を鑑賞しつつ講義を進めます。翌週の授業の冒頭で理解度のテストを行います。中間で実際に映像制作に必要な課題のレポートを提出します。							
授業目標	知識・創意・観点	映像制作の理論と映像史を学び、映像制作の課題レポートを制作します						◎
	技能・成果	映像制作の実際の技術、企画、準備、撮影、演出、照明、音声など具体例とともに学びます						◎
	意欲・自主性・姿勢	毎週理解度の小テストを行います						◎
	目的意識・共感性	映像表現の理論を学び映像を評価できる判断力を付けます。						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作物(レポート)		10	10	10	10	40	
	その他提出物(小テスト)		10	10	10	10	40	
	受講態度(出席等を含む)		-	-	10	10	20	
	合計(点)		20	20	30	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。小テストの取り組み方、課題の映像作品鑑賞姿勢、授業外での鑑賞することなども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	講師作成の教材をPDFでアップロードし、受講期間中は見直すことも可能です。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	映像と動画の概要 映画の誕生 映画のカメラと映写機 著作権・肖像権							
2回	映像史概要 モンタージュ理論とトーキーの出現 スクリーンの大型化とビデオの出現							
3回	映像制作の流れ・企画(プランニング)テーマの設定 映像手法の選択 実写とアニメーションやCG シナリオと絵コンテ							
4回	撮影 レンズの特長 画面サイズ カメラの高さとアングル カメラワーク ロケハン							
5回	照明1 ライト・ポジション 照明の役割 RGBとYMCK 色彩表現～照度と色彩							
6回	照明2 照明機材 3灯照明の基本と応用							
7回	素材制作 2DCGと3DCG 画像合成 アニメーション 音素材と選曲							
8回	音声 音声の物理 スタジオ録音 ロケ現場での録音 MA(マルチレコーディング)							
9回	編集1 編集の役割 イマジナリーライン							
10回	編集2 編集の技法 音によるカンテイング							
11回	絵コンテまたはレポート課題 出題							
12回	特撮の歴史と技法 特撮とは							
13回	アニメーションの歴史							
14回	日本アニメの歴史							
15回	モンタージュ理論の実際 実際に映画をモンタージュ理論から分析							
16回	まとめと関連知識【絵コンテまたはレポート課題 提出】							
備考	初回授業開講前に、受講者事前アンケートを実施します。							
時間外での学修	授業中に取り上げた映像作品を授業外で鑑賞すること。講師作成資料を復習すること。							
講師の実務経験と授業の関係	経験豊富な映像ディレクターから、映像制作に不可欠な基礎的知識を学びます。							
受講生へのメッセージ	映像は100年以上をかけて発展してきたビジュアルと言葉と音声の総合芸術です。今までの鑑賞する側から制作する立場に視点を移して学んでいきましょう。							

授業科目名	WEB理論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD共通・CD	1・2年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	夏期授業期間集中講座として開講 「WEB制作1・2」を履修する場合は必修					
開講期	夏期授業期間	代表曜日・時限	—	資格対応	—			
担当教員	小林武						講師の実務 経験	15年 以上 Web制作
授業概要	書籍『新人IT担当者のためのWebサイト構築&運営がわかる本』を基となる情報とします。 毎回課題に沿ったセクションを読み、講師の説明を受けます。 エッセイ、課題などを毎回提出してもらい、学生の自発的な興味を促します。 場合により、パソコンで実際の画面を見たり、講師の制作物などで説明をします。							
授業方法	指示されたページを読む、説明を受ける、課題を提出する。というパターンで毎回行います。 分からない点を質問したり、気づいた点などを講師に共有する、といった形で授業を進めていきます。							
授業目標	知識・創意・観点	インターネットとウェブサイトの関係性の考察						△
	技能・成果	インターネットそのものに慣れ親しむ						△
	意欲・自主性・姿勢	勉強への取り組み、出席状況						◎
	目的意識・共感性	書籍に記載されている内容に対する理解						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
		知識テスト	—	—	—	50	50	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	50	—	50	
		合計(点)	—	—	50	50	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 出席と興味重視。最後に行う知識テストは提出必須となります。							
テキスト・教材	筆記用具、PC、辞書							
その他参考書	『新人IT担当者のためのWebサイト構築&運営がわかる本』							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	・勉強そのものに対する理解を深めるため、理論系の勉強の方法をレクチャーします。 ・授業の進め方とルールを説明します。 ・余った時間で参考図書を読んで頂きます。							
2～8回	講義ごとに、参考図書を読む→実際の業務での使用法→課題の作業→提出の流れで行います。							
備考								
時間外での学修	書籍の読み直し、インターネットに親しむ(ネットサーフィン)、課題を出す場合もあります。							
講師の実務経験と授業の関係	一般企業も含めたWeb管理において必要な基本的知識を、Web制作のプロの幅広い視点で学びます。							
受講生へのメッセージ	少しでもウェブに興味があり、デザイン業界に就職する学生におすすめします。							

授業科目名	デザイン研究		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)	
			講義・演習	専門	—	VD共通	1年次	1(16)	
必修・選択	選択	その他履修条件	—						
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	1～4回木4 5～8回木3	資格対応					
担当教員	小林勝彦・小林健太郎						講師の実務 経験	20年 以上	アートディレク ター
授業概要	これまでに解かれたデザインの問題をトピックスとして扱い、実践の基盤に必要な理論を習います。								
授業方法	講義中心の授業ですが、授業内では、必要に応じ簡単な演習をおこないます(必要な素材や道具などは前の授業内でお知らせします)。								
授業目標	知識・創意・観点	デザインの歴史や理論を理解する						◎	
	技能・成果	ケーススタディを通じて、思考力を身につける						◎	
	意欲・自主性・姿勢	習った知識を通じ、常に新しいアイデアを模索する						○	
	目的意識・共感性	デザインワークの目的や意義を理解する						○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)		
	レポートやその他提出物		20	—	20	20	60		
	受講態度(出席等を含む)		—	—	20	20	40		
			—	—	—	—	—		
	合計(点)		20	—	40	40	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。								
テキスト・教材	『現代デザイン入門/勝見勝』								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
1回	リアルって何？								
2回	〃								
3回	文字って何？								
4回	デザインとアートの大事件、知っていましたか？								
5回	〃								
6回	〃								
7回	デザインとアートはつながっていますか？								
8回	コンテキストって何？								
備考	授業の進行状況により、トピックとスケジュールが変更になることがあります。								
時間外での学修	取り上げたトピックには別のトピックがつながっています。それらを見つけて自身で調べてください。								
受講生へのメッセージ	先人が解いてきた問題を習うことで、デザインを正確に語れるようになります。								

授業科目名	ブランドマネージメント		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	○	VD・CD	2・3年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	-					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	水1	資格対応	ブランド・マネージャー資格試験3級			
担当教員	島田良					講師の実務 経験	10年 以上	経営企画 ブランディング
授業概要	新しい価値を生み出し、ビジネスデザインの分野で活躍するために必要なマーケティング、ブランディングの基礎知識、再現性のある「型」を学びます。「なんとなくのデザイン」から「根拠あるデザイン」への進化がテーマです。							
授業方法	公式テキストを使用し、授業を行います。豊富な事例紹介だけでなく、個人、グループでのワークショップ(体験型学習)を通して、初心者でも体感的に理解しやすい講座運営を心がけます。そして、受講成果として認定試験「ブランド・マネージャー3級」合格を目指します。							
授業目標	思考・判断・表現	テキスト内容を理解するだけでなく、物事を観る様々な視点を身につける。					◎	
	技能	-					△	
	関心・意欲・姿勢	自分の意見を発言するだけでなく、他人の意見に耳を傾けることを大切にする。					○	
	知識・理解	マーケティング、ブランディングの基礎知識を学び、ブランド・マネージャー検定(3級)合格を目指す。					◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)	
	評価方法							
	ブランド・マネージャー検定試験に挑戦		10	-	10	10	30	
	ブランド・マネージャー検定試験の結果		10	-	-	10	20	
	受講姿勢(出席等を含む)		10	-	20	20	40	
合計(点)		30	-	30	40	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～65点、良:64点～50点、可:49点～40点、不可:39点～となります。ブランド・マネージャー検定の受験、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。認定試験結果(合格/点数)をご報告ください。合格だけでなく、点数も評価の対象になります。							
テキスト・教材	主に『ブランド・マネージャー資格検定 公式テキスト』。その他については、必要に応じて配布します。費用として上述のテキスト代に加え、ブランド・マネージャー検定(3級)試験の試験料が必要です。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	【講座の目的】『ブランドの基礎知識①(第1章前半)』 ブランドとは?定義を揃える							
2回	『ブランドの基礎知識②(第1章後半)』『ブランドの重要性(第2章)』ブランドづくりに大切な種類と階層、ブランド想起のされ方、ブランドのメリット							
3回	『ブランディングの基礎知識(第3章)』ブランディングとは何をする事なのか?、ブランドマネージャーの役割							
4回	『ブランド要素とブランド体験①(第4章前半)』ブランドを表現する様々な要素(ロゴ、マーク、パッケージなど)事例で学ぶ							
5回	『ブランド要素とブランド体験②(第4章後半)』ブランド体験の仕組みを事例と自身の体験から学ぶ							
6回	『マーケティングの基礎知識(第5章)』マーケティングの仕組みと顧客の成長プロセス							
7回	『ブランディングの手法①(第6章前半)』ブランド構築の8ステップ(環境分析～独自性の発見)							
8回	『ブランディングの手法②(第6章後半)』ブランド構築の8ステップ(BI～目標設定)【まとめ】自身の活動に活かすために							
	※この他「検定対策講座」ならびに「検定実施日」などが11月上旬頃までにかけて設定される予定です							
備考	初回授業開講前に、受講者事前アンケートを実施します。							
時間外での学修	授業中は重要知識のポイントのみ解説しますので、事前にテキストの該当箇所や動画教材などを予習してきて下さい。学んだことを、自分の興味があることや、他の授業の課題に活かしてください。							
講師の実務経験と授業の関係	自社でブランディングの知識、経験を活かすことはもちろん、民間企業、非営利団体、地方自治体など、様々なブランドづくりのお手伝いをしてきました。講師としても、規模の大小を問わず、経営者から現場のクリエイターまで、様々な方にブランディングの基礎知識をお伝えしています。							
受講生へのメッセージ	「ブランディング」というと難しそうに感じるかも知れませんが、事例や自身の体験を振り返るワークを多用しますので、知識ゼロからスタートしても、基礎知識を身につけることが可能です。「伝わるデザイン」を創りたい方、ぜひ、受講してみてください!							

授業科目名	美術学習論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	1年次	1(16)
必修・選択	VA必修/VD選択	その他履修条件	「美術学習論実習」を履修するためには必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月2	資格対応	—			
担当教員	松本小百合・松本直樹						講師の実務 経験	20年 以上 イラストレーター、 グラフィックデザイ ナー
授業概要	美術学習(もっと広くいえば「美育」となりますが)とは、与えられた素材を変化させ、克服しようとする一次体験を通じ、自発性や主体性を学び得る貴重な場です。こうした学び・育みの重要性を知り、またその方法を、担当講師・ゲスト講師のワークショップ実例などを通して学ぶのが美術学習論です。授業の中では、既存のワークショップ実例を体験も含めて知るだけではなく、皆さん自身がワークショップを設計してみます。							
授業方法	講義として、「美術学習(美育)」の意義や、ゲスト講師のワークショップ実例を通し「ねらい」や「組み立て方」を学びます。さらにワークショップ自体を体験する演習なども行います。毎回ワークシートを配布し提出します。							
授業目標	知識・創意・観点	「美術学習(美育)」意義を考え、ワークショップ毎の特徴を掴む分析力・洞察力、さらに企画力をつける						◎
	技能・成果	ワークショップ企画の組み立て方や、方法、手順、目標の設定など、企画を具体的に考える構想力を養う						○
	意欲・自主性・姿勢	様々な事例に興味を示し、その特徴を自ら発見していく能動的な姿勢を養う						◎
	目的意識・共感性	「美術学習(美育)」の意義を知る						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
		ワークシート	10	5	15	15	45	
		その他提出物	20	5	—	10	25	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	20	—	20	
		合計(点)	30	10	35	25	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要により配布、また演習での教材も必要に応じ配布予定(ただし、一般的に手に入るものであれば、事前に用意するようお知らせします)							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション/美術学習・美育について/「ながのこども美術学校」について							
2回	[事例1-1]「ながのこども美術学校」での取り組み1							
3回	[事例1-2]「ながのこども美術学校」での取り組み2							
4回	[事例1-3]「ながのこども美術学校」での取り組み3							
5回	[事例1-4]「ながのこども美術学校」での取り組み4							
6回	[事例2]ゲスト講師							
7回	[授業総括演習]ワークショップ・美術講座を考えてみる1							
8回	[授業総括演習]ワークショップ・美術講座を考えてみる2/まとめ							
備考	ゲスト都合により内容が前後する可能性があります。							
時間外での学修	事前に学習として「美育」などのキーワードをもとに調べるなどしてください。また、様々なワークショップ事例もリサーチしてください。ポイントは、どういった「ねらい」で、どのような「方法」で行うかです。							
講師の実務経験と授業の関係	アーティスト・イラストレーターやグラフィックデザイナーの持っている造形ワークショップなど企画・運営のノウハウを講義を通じて学ぶ。							
受講生へのメッセージ	近年では、いわゆる「学び」の場だけではなく、企業などが主催するイベントにおいてもワークショップが盛んに行われています。「美育」という言葉が指す社会的意義と、具体的なワークショップ事例を知っているだけでも、皆さんにとって大きな力となるはずです。							

授業科目名	キャリアデザインA			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	全科共通	1年次	2(32)
必修・選択	必修	その他履修条件	-					
開講期	通年	代表曜日・時限	月・1	資格対応	日本語検定3級			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	-
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となつて構想(=デザイン)し、実現していくことを指します。キャリアデザインAは自身のキャリアについて考え、自己探求を目的とします。 また、授業を通して自分軸、共感力や主体性などの非認知能力を養います。							
授業方法	個人、グループ、全体で行うワークショップ(体験型学習)を中心に学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したる、双方向的な学びと創造のスタイルです。 専門的な外部講師による授業や、企業を訪問する授業も行います。							
授業目標	知識・創意・観点	自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を学ぶ 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ					◎	
	技能・成果	-					△	
	意欲・自主性・姿勢	自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す					◎	
	目的意識・共感性	正しい日本語を理解し、日本語検定3級認定を目指す。授業内での指示や連絡を正確に理解する					○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	提出物		10	-	5	5	20	
	資格試験		20	-	-	-	20	
	グループワーク		10	-	15	5	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	-	20	-	30	
合計(点)		50	-	40	10	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～と なります。 日本語検定の受験、キャリアステップの実施、第20回の自己評価提出および、2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	未来ノート・日本語検定公式練習問題集3級・日本語検定受験料3,800円・社会人基礎力 職業適正診断「キャリアステップ」1,600円・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【積極的傾聴と効果的質問】グループワークを通じて積極的傾聴と効果的質問をする方法を学ぶ。							
第2回-第4回	【自己理解①】「未来ノート」などを用いた「自己理解」のためのワークショップや講義。							
第5回	【自己と向き合う】自分自身の状態を受け止め、気持ちと体をコントロールする方法を学ぶ。[メンタルヘルス]							
第6回	【TEAM BUILDING①】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。							
第7回-第10回	【日本語検定対策①②③④】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。							
第11回 11月8日(金)	日本語検定3級受験日							
第12回-第14回	【自己理解②】「自己理解」をテーマとした個人、グループ単位でのワークショップを行う。							
第15回	【TEAM BUILDING②】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第16回	【着こなし講座】スーツの着こなし方を学ぶ。							
第17回	【就職準備セミナー】就職活動について知り、準備をする。							
第18回	【社会人基礎力・職業適正診断「キャリアステップ」】社会人基礎力と職業適性をキャリアステップにより診断し、自己理解を深める。							
第19回	【クリエイターインタビュー】職業理解を目的として会社を訪問し、自身の学びが仕事の現場でどのようにつながっているかを感じる。							
第20回	【ふりかえり】キャリアデザインAをふりかえり、自身の変化に気付く。							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 【クリエイターインタビュー】は会社訪問を予定しています。会社までの交通費は自己負担です。 対面での授業を基本としていますが、オンラインで実施する場合があります。							
時間外での学修	日本語検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	自分自身のキャリアをデザインするには自己を探究し、自己理解を深めることが第一歩です。自己を理解し、自分自身を人に伝えられる力をつけましょう。 キャリアデザインAの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							

授業科目名	キャリアデザインB			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	全科共通	2年次	2(32)
必修・選択	必修	その他履修条件	-					
開講期	通年	代表曜日・時限	月・2	資格対応	ビジネス能力検定3級			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	-
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(=デザイン)し、実現していくことを指します。キャリアデザインBはキャリアデザインAに引き続き自身のキャリアについて考え、自己探求をし、さらに人間力を養うことを目的とします。また、授業を通して自分軸、共感力や主体性などの非認知能力を養います。							
授業方法	個人、グループ、全体で行うワークショップ(体験型学習)を中心に学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。専門的な外部講師による授業や、企業を訪問する授業も行います。							
授業目標	知識・創意・観点	自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を磨く 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ					◎	
	技能・成果	-					△	
	意欲・自主性・姿勢	自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す					◎	
	目的意識・共感性	社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学び、ビジネス能力検定3級合格を目指す 授業内での指示や連絡を正確に理解する					○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	提出物		10	-	5	5	20	
	資格試験		20	-	-	-	20	
	グループワーク		10	-	15	5	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	-	20	-	30	
合計(点)		50	-	40	10	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100~80、良:79~70、可:69~60、不可:59~となり。ビジネス能力検定の受験、第16回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト・ビジネス能力検定受験料3,000円・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【積極的傾聴・効果的質問】キャリアデザインBの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。【発信力・傾聴力】							
第2回-第4回	【ビジネス能力検定対策①②③】社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学ぶ。【課題発見力・規律性】							
第5回 6月3日(月)	ビジネス能力検定3級受験日							
第6回	【TEAM BUILDING①】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 【主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力】							
第7回	【自己理解】ジョブカードを活用したキャリア形成支援セミナー。							
第8回	【クリエイターインタビュー】職業理解を目的として会社を訪問し、自身の学びが仕事の現場でどのようにつながっているかを感じる。 【主体性・課題発見力・傾聴力・状況把握力】							
第9回	【主権者教育】模擬の選挙広報や政見放送を視聴し、候補者への模擬投票を行うことにより、選挙への理解を深める。							
第10回-第12回	【社会課題への取り組み】社会課題を自分ごととして捉え、課題解決に向けてワークショップを行う。							
第13回	【経済と金融】金銭・経済・投資などのお金に関連する知識をつけ、向き合い方を学ぶ。【規律性】							
第14回	【新社会人ワーキングセミナー】労働基準法を中心とした労働関係の基礎知識や、新社会人の心構え等を学ぶ。【規律性】							
第15回	【TEAM BUILDING②】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 【主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力】							
第16回	【ふりかえり】キャリアデザインBをふりかえり、自身の変化に気付く。【課題発見力・状況把握力】							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 【クリエイターインタビュー】は会社訪問や会社説明会を予定しています。会場までの交通費は自己負担です。対面での授業を基本としていますが、オンラインでも実施することもあります。							
時間外での学修	ビジネス能力検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	卒業後の自分自身を意識し、激変の時代でも道を切り拓いていける力を身につけ、自身の特徴を社会で活かせるように準備をしていきましょう。キャリアデザインBの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							

授業科目名	コピーライティングA		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	2年次	2(32)
必修・選択	VD・CD必修／VA選択	その他履修条件	夏期授業期間集中講座として開講					
開講期	夏期授業期間	代表曜日・時限	—	資格対応	—			
担当教員	長峯亘・小林駿					講師の実務経験	○ コピーライターほか	
授業概要	<p>広告とは思われられる存在であるとともに、時に我々の暮らしのヒントとなり、時代や文化に多大な刺激を与え、想像を遥かに超える“現象”を作り出すことがあります。広告を表現という視点から眺めると、それはあらゆる思考や手法によって成立した『情報と情緒』で構成されていることがわかります。情報とは消費者に届けるためのメッセージ、情緒とはその広告から匂い立つ、その広告でしか創造できない独自性です。</p> <p>コピーライティングAでは、宣伝広告という枠の中で、いかに情報を伝え、情緒を生み出すかを主に実技・実習によって構造的かつ身体的に学ぶ授業です。</p>							
授業方法	<p>講義や演習を通じて広告表現の概観、アイデア発想、コピーライティングを含めた文章表現の基礎と応用を学び、提示されたテーマ（課題）を解決するための表現を探究。成果物として提出します。</p> <p>【テーマ】</p> <p>1回目の授業にて発表。</p> <p>【提出する成果物】</p> <p>グループワークによる15秒テレビCMおよびポスター広告の制作。グループ内で明確な役割分担を行い、チームで制作を進行する楽しさと難しさを味わいながら、納品日に向けてそれぞれの仕事を全うしていく。</p>							
授業目標	知識・創意・観点	情報を的確に伝え、人の心を動かす表現の根本を探る						◎
	技能・成果	情報収集力、整理・分析力を培う						○
	意欲・自主性・姿勢	グループ単位での活動に率先して参画し、連携する						○
	目的意識・共感性	人を惹きつけ、伝わる文章の知識と理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	制作物①[プレゼンテーション]		20	5	—	20	45	
	制作物②[成果物]		20	5	—	20	45	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	10	—	10	
合計(点)		30	30	30	10	100(点)		
評価の特記事項	<p>成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。</p> <p>適時小論文など非広告領域における文章表現の課題を提示する場合があります。</p>							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回目	授業オリエンテーション／“書くこと”とは何か／広告概説／テーマ発表と課題説明／グループ分けなど							
3～7回目	アイデア発想法／企画書制作／身体表現／プレゼンテーションなど							
8～16回目	グループでの成果物制作を進行させ、指定した納品日までに必ず完成させます。							
備考	成果物は掲出し、学生や講師による寸評会を実施します。							
時間外での学修	プロジェクト型学習は、個人またはチームごとに授業外にも行うことを想定しています。授業外に、グループでの打ち合わせや制作などで、週に5時間程度の学習を要します。							
講師の実務経験と授業の関係	コピーライターとしての講師の実務経験から、実践的な演習課題を出し、それを通じて「使える」コピーライティングを学びます。							
受講生へのメッセージ	<p>伝えたいことを思い通りに伝えられることは稀です。あなたの話を聞いている相手はあなたではない。だから、あなたの思いがすべて伝わることはありません。相手は勘違いをしたり、聞き間違えたり、大して話を聞いていないこともあるでしょう。だから何度も言葉にしてみたり、文章にしてみたり、あらゆる手法で自分の思いを伝えようとするのが人間です。</p> <p>この授業に参加することで、あなたが伝えたいことの100のうち1つくらいは正確に伝えられることができるようになる気がしています。便利なようで役に立たない、自由なようで不自由な言葉を、何とかして使いこなせるように、文章というひとつの手法について一緒に学んでみましょう。</p>							

授業科目名	コピーライティングB		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD3・CD	3年次	1(16)
必修・選択	必修	その他履修条件	夏期授業期間 集中講座として開講					
開講期	夏期授業期間	代表曜日・時限	—	資格対応	—			
担当教員	安齋 高志・小林 駿					講師の実務 経験	○ コピーライター ほか	
授業概要	マーケティングを理解していれば、「誰に伝えるべきか」「何を伝えるべきか」が整理しやすくなります。「誰に、何を」を早めに明確にできれば、「どう伝えるか＝表現」のために多くの時間を割くことができます。もちろん、表現がおかしな方向に転がることも少なくなります。制作意図をわかりやすく説明できるようになります。この授業では、マーケティングの基礎知識をもちいて「誰に何を伝えるか」を整理したうえで「どう伝えるか」を考える力を養います。また制作意図を理解してもらうための説得力も身につけていきます。							
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング理論の基礎、特にポジショニングマップについて理解を深めます。 ・実際に自分の好きな商品や、入りたい会社、推しなどのポジショニングマップを作成し、強みを抽出します。 ・「誰に」「何を」伝えるかを整理し、それをもとに「どう表現するか」を考え、コピー化します。 ・コピーで訴える内容が一番伝わりやすいと思われる手法、もしくは自分が得意とする手法(映像、ポスター、Webサイト、パンフレットなど)で表現します。 ・なぜその手法を選び、その表現をするのか、企画書にまとめプレゼンテーションをします。 							
授業目標	知識・創意・観点	商品や会社の強みを的確に抽出できるようになる						◎
	技能・成果	誰に何をどのように伝えるべきか整理・判断できるようになる						◎
	意欲・自主性・姿勢	正解は一つではないので、説得力が生まれるまでトライを続ける						○
	目的意識・共感性	伝わる広告物を作れるようになり、伝わるプレゼンテーションができるようになる						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)		
	制作物(広告)	20	10	10	10	50		
	プレゼンテーション	10	20	—	10	40		
	授業態度	—	—	10	—	10		
	合計(点)	30	30	20	20	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点~80点、良:79点~70点、可:69点~60点、不可:59点~となります。							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他映像や写真撮影ができるもの(スマホなど)							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回目	授業全体のオリエンテーション/マーケティングの基礎知識/ポジショニングマップの作り方/実際に作ってみる							
3・4回目	制作の対象となる商品や企業の選定/ポジショニングマップの作成/コピーライティング							
5・6・7回目	広告物の制作							
8回目	プレゼンテーション/講師、学生同士による講評							
備考								
時間外での学修	5~7回目の制作時間に間に合わない、または撮影などの条件が整わない場合は、時間外で素材を集めること。							
講師の実務経験と授業の関	コピーライターに加えて、営業やクリエイティブディレクター、プランナーとしての経験から、ビジネスに必要な「説得力のある提案」ができる力を養います。							
受講生へのメッセージ	分業化が進んだ大手広告代理店や制作会社では、「どう伝えるか」がクリエイターの仕事のすべてです。しかし、ローカルの広告制作の現場では「誰に伝えるか」「何を伝えるか」を整理することもクリエイターの仕事になることが多く、それができる人が重用されます。この授業では誰に、何を、どう伝えるかを提案し、説得力を養います。							

授業科目名	映像制作入門			科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)	
				講義・演習	専門	—	VD・CD	1年次	1(16)	
必修・選択	選択	その他履修条件			—					
開講期	7月～10月(ゼミ期)		代表曜日・時限	金1・2	資格対応	—				
担当教員	中村武志・滝澤弘志・金井真一・大井川茂兵衛 ほか							講師の実務 経験	15年 以上	映像クリエイター、映 像ディレクター、フォト グラファーほか
授業概要	撮影環境や被写体ごとの撮影方法を知り、カメラ等の原理や機材使用法、またデータの取り扱い方などをはじめとした撮影技術の基礎的リテラシーや、動画の仕組みや構成などを学び、映像表現の基礎的技術の習得を目指します。									
授業方法	講義・演習ベースの授業です。カメラマンや映像クリエイターなどの複数の講師をお迎えします。演習は撮影方法のレクチャーを予定しています。※本授業は不定期に開講する場合があります。予定が変更となった場合は連絡しますのでご注意ください。									
授業目標	知識・創意・観点	カメラ等の原理や機材使用法に対する知識を身につけ以後の自身の制作に活かす								○
	技能・成果	スチルやムービーの基礎的技術を身につける								○
	意欲・自主性・姿勢	講義、演習などの授業形態を問わず、意欲的に取り組む								◎
	目的意識・共感性	カメラや映像の原理についての幅広い知識・理解を深める								◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。								
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)			
	授業内提出物		10	10	10	20	50			
	受講態度(出席等を含む)		—	—	40	10	50			
	合計(点)		10	10	50	30	100(点)			
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。									
テキスト・教材	撮影機材に関しては、必要に応じ学校教材を貸し出します。									
その他参考書	必要に応じて案内します。									
授業計画										
実施回・期間	授業内容・目標									
1回	オリエンテーション/スチル(写真)①:カメラの原理と仕組み・課題の出題・撮影演習									
2回	スチル(写真)②:カメラの原理と仕組み・課題の出題・撮影演習									
3回	ムービー①:課題の出題・撮影演習									
4回	ムービー②:課題講評									
備考	履修者には事前に配布するワークシートに取り組んでください。 上記は予定です。講師の都合により開講時期を変更する場合があります。									
時間外での学修	撮影環境は、天候や時間帯に大きく影響を受けます。そうした環境次第では、時間外での撮影も必要となりますのでご了承ください。									
講師の実務経験と授業の関係	映像ディレクターやクリエイター、フォトグラファーなど実務経験の豊富な講師から、カメラ原理、具体的な機材の使用法、映像の原理や構成など、基礎的知識を学びます。									
受講生へのメッセージ	本授業で登場する撮影機材や知識は、皆さんにとって初めてのものばかりとなるでしょう。ですが、映像分野で高い専門性を発揮するためには、必要不可欠なものばかりです。興味・関心を持ち、取り組んでください。									

授業科目名	映像表現		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	2・3・4年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木4	資格対応	—			
担当教員	土橋利章・大日方直樹・小林駿 ほか					講師の実務経験	10年 映像ディレクター ほか	
授業概要	<p>昨今、映像を用いた表現の幅の広がりや、とどまるところを知らません。「CG」「アニメーション」「プロジェクトンマッピング」にはじまり「Youtube」や「TikTok」に至るまで、映像の表現力は、複雑多岐に姿を変え、我々の世界に影響しています。本授業では、映像業界の各方面で活躍するプロフェッショナルをゲスト講師としておむかえし、実際のクライアントワークや機材などに触れる機会を設けます。履修される皆さんは、映像表現の奥深さと幅広さについて理解を深め、映像クリエイターとしての仕事の「面白さ」を発見してもらいたいと思います。</p>							
授業方法	<p>講義中心の授業です。毎回ゲスト講師をお招きして、制作物とそれまつわるお話しや、使用している機材、あるいはソフトなどを紹介していただきます。場合によって演習課題やレポートなどもあります。開講日時は不定期(5～10月までの木曜が中心)です。</p>							
授業目標	知識・創意・観点	映像の表現の幅を知り、見識を広げ、自身の制作の動機づけとする						◎
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	演習への取り組みやレポート提出、ゲスト講師への質問などを通し積極的に授業へ参加する						◎
	目的意識・共感性	どのような技法や機材があるか学ぶ						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	レポートや演習などの提出物	20	—	10	10	40		
	受講態度(出席等を含む)	—	—	40	20	60		
	合計(点)	20	—	40	30	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	導入授業							
2回～7回	随時、演習やゲスト講師を招いての講義							
8回	授業ふりかえり							
備考	確定した開講日時に関しては、1週間前までを目安にお知らせをします。履修生は、教務からの連絡を注視してください。							
時間外での学修	レポートや演習課題のほか、授業において取り上げたトピックスについて、各自、考えを深めてください。							
講師の実務経験と授業の関係	映像ディレクターやクリエイターなど実務歴のある講師から、様々な映像表現とその仕組みや効果を学びます。							
受講生へのメッセージ	毎回、映像業界におけるプロフェッショナルをお招きします。楽しみにしててください。							

授業科目名	マンガ概論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	1年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木・3	資格対応	—			
担当教員	ながはり朱実						講師の実務経験	10年以上 イラストレーター
授業概要	マンガの手法を演習し、その成果物をディスカッションします。また自身が感じる魅力的なマンガを観察、洞察、プレゼンテーションすることで、より造詣を深めていきます。							
授業方法	講義と演習が中心の授業になります。プレゼンテーションやグループワークも行ないます。また他者の制作物を鑑賞し自分の感じたことを伝えることもおこないます。							
授業目標	知識・創意・観点	マンガを通して、絵の表現力、物語力、総合力を学ぶ						◎
	技能・成果	—						○
	意欲・自主性・姿勢	グループワークや発表時の積極性や協調性、提出課題期限を守る						◎
	目的意識・共感性	講義・演習を通して表現力、物語力、総合力を身につける						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法		提出物	20	—	20	20	60
			受講態度(出席等を含む)	10	—	20	10	40
			合計(点)	30	—	40	30	100(点)
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要により配布。画材などの制作に必要なツール。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	マンガの特性と表現形式の講座							
2回	グループワーク(読み手目線からマンガ考察)							
3～8回	マンガの形式を演習を交え、考え話し合う コマや吹き出しの有効な使い方 1コママンガ及びストーリーマンガの表現方法など							
備考								
時間外での学修	時間内で満足のいく制作が難しい場合は、各自時間外で進めること。課題は必ず完成させて提出してください。							
講師の実務経験と授業の関係	イラストレーターとしてマンガコラムなども多く手がけた講師の実務経験からの講義や、実践的な演習課題を出し、それを通じてマンガを描くだけではなく、考察し構成する力を身につけます。							
受講生へのメッセージ	演習も多くありますが、うまく描くというより、コツや見え方、手法を実技で学ぶ時間です。 第三者に伝わる表現方法の手段として、マンガを考えます。							

授業科目名	キャラクター概論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	1・2・3年次 ※VDは1年次のみ	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	土1・2	資格対応	—			
担当教員	下田ひかり						講師の実務 経験	5年 以上 アート
授業概要	世の中にある「キャラクター」について、分類や役割を調査し、自分達で造形することで、より実践的に理解を深める。グループワークとして行う事で、社会が必要とされるコミュニケーションを通じたクリエイティブを学ぶ。							
授業方法	長野の企業や自治体のキャラクターを作る授業です。1,2回目は事前に配布した資料の読み合わせ、3回目からは1班5人程度に分かれたグループワークです。ものづくりは1人で完結できるものではありません。必ず「私以外の誰か」が存在して成り立ちます。グループワークを通して、協力して一つのものを企画する勉強をします。							
授業目標	知識・創意・観点	目的からキャラクターデザインを作り上げ同時に商品パッケージ、プロモーション方法を考える アイデアをイラストや図などを使って分かりやすく他人に伝えるプレゼン方法を考える						◎
	技能・成果	「上手く描く」事は必要はないが、成果物を「見る人にちゃんと伝わるもの」に仕上げる						○
	意欲・自主性・姿勢	グループワークなので、一人一人がグループに積極的に関わり、役割分担をし、意欲的に取り組む						◎
	目的意識・共感性	自分達で能動的に調査する事で、対象への知識と理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法		10	—	10	10	30	
	課題(レポート等)		10	10	10	10	40	
	制作物(グループ単位)		10	—	10	10	30	
	受講態度(出席等を含む)		30	10	30	30	100(点)	
評価の特記事項	出席率(関心・意欲)を重視しています。欠席1日まで可。それ以上は不可。やむを得ない場合は要相談。初回(1,2回)の出席は必須。欠席した場合は、レポート提出。自主性を重視します。ただ授業に参加するだけでなく、話し合いへの積極的な参加、アイデア出しが求められます。これらの態度も評価に含まれます。							
テキスト・教材	教材などはこちらでは用意しません。「自分達で調べる」事が必要になるので、パソコンやスマホ、資料など授業中に調べるためのものを自分達で用意すること。その他、ゆるキャラ制作に必要なと自分達で判断したもの(描画に必要な紙や筆用具、パソコン、デバイスなど)を準備							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	キャラクターについての概要、役割、活用について、グループごとの調査と発表。							
3～10回	グループごとにオリジナルのゆるキャラ作成。途中と最後にプレゼン発表。							
備考								
時間外での学修	時間内で満足いく制作が難しいと判断した場合は、各自時間外で集まって検討を重ね、最終的に成果物として完成させ発表すること。							
講師の実務経験と授業の関係	オリジナルキャラクターのプロダクト化などもおこなう講師から、具体的なキャラクターの設計方法を、演習などを通して学びます。							
受講生へのメッセージ	1年次にはまだ馴染みのないグループワーク形式の授業です。普段何気なく接しているキャラクターについて、クリエイティブの学校だからこそ、その意義や効果的な使われ方について実践的に学べる授業としました。自分達で考え形にする事を最重要視しています。各々がクリエイティブに関わる一人だと自覚し、一つのものを作り上げるために積極的に動けるように考えて行動して下さい。							

授業科目名	プロジェクトデザイン基礎1・2・3		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD3・CD	1・2・3年次	1(16)
必修・選択	必須	その他履修条件	—					
開講期	7月～10月 (ゼミ期)	代表曜日・時限	水2	資格対応	—			
担当教員	本藤佳代子						講師の実務 経験	20年 コピーライター・ 以上 プランナー
授業概要	プロジェクトデザインは期限までにプロジェクトの目標を成し遂げる方法の設計です。プランニング、ファシリテーション、デザイン、マネジメントなど様々なスキルを要します。本年度も、提示したプロジェクトに取り組んでいただきます。誰に、何を、どのような手段と表現で伝えるか、企画だけでなく、実践にも挑戦していきます。「新しい景色」を生み出してください。							
授業方法	プロジェクトチームを組んで課題の再定義から目的と到達目標(ゴール)を定め、プロジェクトの計画を構築、実践します。							
授業目標	知識・創意・観点	具体性のある目標を設定、タスクを整理し、実現に向けたロードマップを確立する						◎
	技能・成果	思考・発想力、実制作両面で、タスクを適切に処理する力を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	社会性を発揮しチームでプロジェクト実現のために意欲的かつ積極的な行動を取る						◎
	目的意識・共感性	目標達成の過程で必要な知識を蓄え、プロジェクトの持つ意義について理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達目標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	企画		10	—	10	10	30	
	制作物		10	10	5	5	30	
	プレゼンテーション		—	10	10	10	30	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	10	—	10	
合計(点)		20	20	35	25	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。成果物はそれ自体の完成度だけでなく、それに対するの第3者の評価も重要とします(プロジェクトデザイン基礎では公開することを前提にすべて制作するため)。振り返りの共有までを含めスケジュール厳守を旨とします。							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	オリエンテーション:プロジェクトデザインとは、出題プロジェクトの発表、チームの構成(学年混合チーム)							
第2回以降	各チームで実践(目的・目標の設定、情報収集分析、立案、タスクの洗い出し、スケジュール作成、立案、デザイン、プレゼン資料製作)、最終日プレゼンテーション、振り返り共有までを行います。							
備考	学年混合のチームで実践します。上級生はこれまでに培った知識や経験を惜しみなく下級生に披露し、下級生も遠慮することなく積極的に取り組みましょう。							
時間外での学修	プロジェクト型学習は授業外にも行うことを想定しています。授業外に週に5時間程度の時間外学習を目安とした立案をしましょう。							
講師の実務経験と授業の関係	プランナーとして企業のプロジェクトに関わった実務経験から、実践的な演習課題を出し、遂行をサポートします。							
受講生へのメッセージ	プロジェクトのデザインは、非常に体力も根気もいることです。自分のやりたいことを楽しみながら一緒に学びましょう。							

授業科目名	インターンシップA			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	全科共通	1年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	通年	代表曜日・時限	※1	資格対応	—			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。 現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。							
授業方法	学校が連携した企業との間で催されるインターンシップ、または企業および市町村が主催するインターンシップにて、計5日相当の日数を目安に取り組みます。事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。							
授業目標	知識・創意・観点	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ						◎
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す						◎
	目的意識・共感性	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	その他提出物		10	—	10	10	30	
	他者との協同		10	—	10	10	30	
	受講態度(出席等を含む)		15	—	15	10	40	
	合計(点)		35	—	35	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢およびインターンシップレポートの内容を重視し、評価します。							
テキスト・教材	インターンシップレポート・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップAの目的・目標・授業の取り組み方を理解し、ゴールを見据える。							
第2回	【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップAの取り組みを個人で計画する。学校連携インターンシップ先企業公開および希望調査。							
6月下旬	【学校連携インターンシップ先参加学生決定】希望調査をもとに学校と連携して実施するインターンシップ先に参加する学生を決定します。							
第3回	【事前準備】インターンシップ先企業別または、個人ごとオリエンテーションを行います。							
	【学校連携インターンシップ】【企業開催インターンシップ】							
第6回	【ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 会社までの交通費は自己負担です。市町村主催のインターンシップ事業においては補助金制度が設けられている場合もあります。 【履修上の注意】 インターンシップAにおいて学校連携企業へのインターンシップに参加できる学生は約20名です。第2回の希望調査と日頃の学修態度等も含めて選抜します。 ※1 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。							
時間外での学修	企業リサーチを各自おこなう。 インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。 インターンシップ先で必要とされるスキルを事前に学び、復習する。							
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。現場で学び、「働く」ことについて理解を深めましょう。							

授業科目名	インターンシップB			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	全科共通	2年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	通年	代表曜日・時限	※1	資格対応	—			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。 現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。							
授業方法	学校が連携した企業との間で催されるインターンシップ、または企業および市町村が主催するインターンシップにて、計5日相当の日数を目安に取り組みます。事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。							
授業目標	知識・創意・観点	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ						◎
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す						◎
	目的意識・共感性	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	提出物		10	—	10	10	30	
	他者との協同		10	—	10	10	30	
	受講態度(出席等を含む)		15	—	15	10	40	
	合計(点)		35	—	35	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢およびインターンシップレポートの内容を重視し、評価します。							
テキスト・教材	インターンシップレポート・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップBの目的・目標・授業の取り組み方を理解し、ゴールを見据える。							
第2回	【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップBの取り組みを個人で計画する。学校連携インターンシップ先企業公開および希望調査。							
6月下旬	【学校連携インターンシップ先参加学生決定】希望調査をもとに学校と連携して実施するインターンシップ先に参加する学生を決定します。							
第3回	【事前準備】インターンシップ先企業別または、個人ごとオリエンテーションを行います。							
	【学校連携インターンシップ】【企業開催インターンシップ】							
第6回	【ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 会社までの交通費は自己負担です。市町村主催のインターンシップ事業においては補助金制度が設けられている場合もあります。 【履修上の注意】 インターンシップBにおいて学校連携企業へのインターンシップに参加できる学生は約15名です。第2回の希望調査と日頃の学修態度等も含めて選ばれます。 ※1 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。							
時間外での学修	企業リサーチを各自おこなう。 インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。 インターンシップ先で必要とされるスキルを事前に学び、復習する。							
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。現場で学び、「働く」ことについて理解を深め、現場で活かせる自分の特徴を見つけましょう。							

授業科目名	WEB表現		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	WEBメディア ライン	—	全科共通	1・2・3年次 ※VAは2・3年次	1(16)
必修・選択	条件選択	その他履修条件	「WEB制作1・2」を履修する場合は必修					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木4	資格対応				
担当教員	大日方直樹 ほか					講師の実務 経験	5年 以上	WEB企画 ほか
授業概要	<p>(UX) や操作性や視覚性 (UI) を意識したデザインはもちろんのこと、写真や、映像、イラスト、文字情報など適切なコンテンツを組み合わせた総合的な企画力=“WEB表現力”が必要となります。そうした能力を身につけるために、本授業ではまず過去と現在のWEBを取り巻く状況を把握します。また、第一線で活躍するクリエイターの生の声を聞き、その上で、それぞれがWEBサイト制作におけるターゲットを設定。最適な表現方法を探し出し、他者にプレゼンするすべを学びます。</p>							
授業方法	前半は講義メインの授業。後半は制作したいWEBサイトの企画書を作成しプレゼンを行う。							
授業目標	知識・創意・観点	届けたいターゲットに刺さる企画とデザインを考える。						◎
	技能・成果	説得力のあるプレゼン資料の作成と発表。サイトの構築を目的としない。						◎
	意欲・自主性・姿勢	どのような表現を使えばターゲットに届くのかを考える。						◎
	目的意識・共感性	WEBの成り立ちと現状、今後必要とされる表現方法を考える。						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	課題への取り組み		10	15	—	10	35	
	成果物		10	15	—	10	35	
	受講姿勢		—	—	20	10	30	
合計(点)		30	20	20	30	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～65点、良:64点～50点、可:49点～40点、不可:39点～となります。							
テキスト・教材								
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	(内容)イントロダクション・WEBの歴史	(1)導入説明(2)WEBの歴史についての学ぶ						
2回	(内容)僕たちが考える“現在のWEB”って何？	(1)さまざまなWEBサイトの役割と目的を考える						
3回	(内容)企画せよ！ WEBサイト作成に向けたターゲットの設定	(1)誰に何を届けたいのか？(2)企画を考える						
4回	(内容)ゲスト講師による講義	(1)WEB表現の現場を学ぶ						
5回	(内容)ゲスト講師による講義	(1)WEB表現の現場を学ぶ						
6回	(内容)企画を考える・プレゼン資料の作成	(1)素材をリストアップ (2)プレゼン資料の作成						
7回	(内容)企画を考える・プレゼン資料の作成	(1)プレゼン資料の作成						
8回	(内容)プレゼン資料の発表	(1)他者に伝わる発表方法を学ぶ						
備考								
時間外での学修	プレゼン資料で使用する素材の準備や作成などは、授業外で進めましょう。							
講師の実務経験と授業の関係	さまざまなメディアで多彩なコンテンツを企画・制作してきた経験豊富な講師が授業を担当します。 外部講師による単発セミナーも含んでいます。							
受講生へのメッセージ	WEBは、ますます社会にとって必要不可欠な存在となり、かつ細分化が進んでいくと思います。今後はどのような業種でも関わることになるでしょう。美専生らしく、美しく使いやすいWEBサイトを企画できる能力を身につける一歩目の授業としてください。							

授業科目名	ライン別ゼミA・B・C・D		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	総合	○	全科共通	1・2・3・4年次	4(120)
必修・選択	必修(C・Dは選択)	その他履修条件	1…全科の1年次以降 / 1…全科の2年次以 / 3…CDの3年次以 / 4…CDの4年次に配当					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	火・水・金	資格対応	—			
担当教員	寺島克己・大橋佳世子・中村武志・ながはり朱実・本藤佳代子・松本直樹 ほか					講師の実務経験	20年以上 <small>グラフィックデザイナー・映像クリエイター・イラストレーター・美術家ほか</small>	
授業概要	みなさんにとって、本校の基礎履修期に配当された多くの科目が「学びの視野を広げるもの」であるならば、ライン別ゼミは「各専門性をよりも深く学ぶもの」として用意されたものです。ゆえに、学び集大成である「総合制作」の前に設置されています。上記の設定意図から、制作物の完成を前提とした実技演習を中心とし、実践的なワークを含め、各ゼミにおける授業スケジュールは、ラインごとの専門性によって異なります。また全ての年次が同じゼミのもと、ひとつの教室で授業をおこなうことも、その特徴となります。ビジュアルデザイン科は、デザイン、イラストレーション、映像(2年次のみ)、WEBメディア(2年次のみ)、ビジュアルアート科は、アニメキャラクター、ファインアート、マンガ(2年次のみ)の各ラインに分かれます。なお夏期授業期間においてはラインごと課題が出題されます。							
授業方法	実技ベースの授業で、各ラインの特性に合わせた授業がそれぞれ展開します。主にデザインラインはグループワークが中心となり、その他の授業は、個人制作がメインとなっていきます。							
授業目標	知識・創意・観点	制作を通し、各ラインの専門性に適した表現を実践的に学ぶ						◎
	技能・成果	個人実技はもちろん、グループワークにおいてもそれぞれの専門性特有の技能を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	制作物を完成させ、発表ないしはクライアントへの納品まで行い、制作の先まで経験する						◎
	目的意識・共感性	各専門性に必要な知識を深く学び、プロフェッショナルのレベルを知る						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
		制作物	10	10	10	10	40	
		制作プロセス	5	5	5	5	20	
		受講態度(出席等を含む)	10	10	10	10	40	
		合計(点)	25	25	25	25	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
7月1日～5日	ライン別ゼミ導入プログラム							
7月6日～25日	ゼミごとの課題やオリエンテーション							
7月26日～10月30日	制作等の実技							
10月31日	ラインゼミごとのまとめ							
備考	ゼミ期:7月1日～10月31日(夏期授業期間:7月1日～8月25日)							
時間外での学修	制作ベースの授業は、授業外での取り組みを念頭においています。授業外でも制作をしてください。加えて、デザインラインなどのクライアントの要請に基づくプロジェクト型学習においては、チームごとの打ち合わせなどもあります。							
講師の実務経験と授業の関係	合同のオリエンテーション後、履修学生はゼミに分かれ、それぞれの専門分野プロの講師から出題される制作課題を通し、それぞれの分野への理解を深め技術を高めます。							
受講生へのメッセージ	各専門性について深く学ぶ機会です。しっかりと制作に励み、経験を積み、そして成長の糧としてください。							

授業科目名	就職実践		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	総合	—	VD3・CD	3・4年次	3(90)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	ゼミ期 各授業とどちらかを選択					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	※1	資格対応	—			
担当教員	依田由美子・小林駿・和田邦彦						講師の実務 経験	—
授業概要	<p>企業の中で長期に渡る仕事体験を個人に合わせたプログラムとして実施します。 仕事をする上でどんなスキルが必要なのか、どんな力が必要なのかを、体験やそこで働く方々の姿勢から学んでください。自分の強みをインターンシップ期間中に見つけ、活かして今後の自分の進路に役立ててください。</p>							
授業方法	中長期にわたるインターンシップです。履修登録後のヒアリングを通し、企業とのマッチングをはかります。							
授業目標	知識・創意・観点	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ						◎
	技能・成果	—						△
	意欲・自主性・姿勢	教えを待つのではなく、自ら進んで学びとる姿勢を身につける						◎
	目的意識・共感性	仕事上でどんなスキルが必要なのか、どんな力が必要なのかを体験やそこで働く方々の姿勢から学びとる						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)		
	評価方法							
	提出物	10	—	10	10	30		
	他者との協同	10	—	10	10	30		
	受講態度(出席等を含む)	15	—	15	10	40		
合計(点)	35	—	35	30	100(点)			
評価の特記事項	<p>成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢およびインターンシップレポートの内容を重視し、評価します。</p>							
テキスト・教材	インターンシップレポート・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
5月上旬	希望調査							
6月下旬	プログラム内容の決定 ※プログラム内容により、インターンシップ先等を決定し、取り組む							
8月～10月	インターンシップ実施期間							
11月上旬	ふりかえり							
備考	<p>授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。会社までの交通費は自己負担です。 ※1 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。</p>							
時間外での学修	企業リサーチなども含め、インターンシップに向けた準備を各自進める。							
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。希望する現場で学び、「働く」ことについて理解を深め、現場で活かせる自分の特徴を活かしていきましょう。							

授業科目名	長期インターンシップA・B			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				実技	○	VD3・CD	2・3年次	2(60)
必修・選択	選択必修	その他履修条件						
開講期	7月～8月(夏期授業期間)	代表曜日・時限	※1	資格対応	—			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。 現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。							
授業方法	夏期授業期間を中心に10日間相当のインターンシップを実施します。 インターンシップ先を自ら探し、事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。							
授業目標	知識・創意・観点	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ					◎	
	技能・成果	-					△	
	意欲・自主性・姿勢	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す					◎	
	目的意識・共感性	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる					○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	提出物		10	—	10	10	30	
	他者との協同		10	—	10	10	30	
	受講態度(出席等を含む)		15	—	15	10	40	
	合計(点)		35	—	35	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢およびインターンシップレポートの内容を重視し、評価します。							
テキスト・教材	インターンシップレポート・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【インターンシップオリエンテーション①】目的・目標・授業の取り組み方を理解し、ゴールを見据える。							
第2回	【インターンシップオリエンテーション②】取り組みを計画する。							
第3回	【事前準備】個人ごとオリエンテーションを行います。							
	【インターンシップ】15日間程度のインターンシップの実施							
第4回	【ふりかえり】							
第5回	【インターンシップ報告会】インターンシップでの体験とふりかえりを全体で共有します。							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 会社までの交通費は自己負担です。市町村主催のインターンシップ事業においては補助金制度が設けられている場合もあります。 ※1 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。							
時間外での学修	企業リサーチをおこなう。 インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。							
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。希望する現場で学び、「働く」ことについて理解を深め、現場で活かせる自分の特徴を活かしていきましょう。							

授業科目名	自由実践A・B・C・D・E・F・G・H			科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				実技	総合	—	全科共通	1・2・3・4年次	1(30)
必修・選択	選択	その他履修条件	A・B…全科の1年次 / C・D…全科の2年次 / E・F…VA3・VD3・CDの3年次 / G・H…VA3・3年次およびCDの4年次に配当						
開講期	随時	代表曜日・時限	—	資格対応	—				
担当教員	松本直樹・小林健太郎							講師の実務経験	5 グラフィックデザイナー
授業概要	<p>連携企業等から相談される社会課題やコンペ等に対し、実践的にクリエイティブワークでこたえる授業です。このため厳密な授業スケジュールは組めません。学生自らエントリーしたプロジェクトごとに進行します。</p> <p>授業の流れは、所定のフォーマットを用いて各プロジェクト課題を選択しエントリーします。課題の確定後、それぞれの課題に取り組みます。</p> <p>連携企業等課題の場合は、①該当課題のオリエンテーション→②制作（中間経過報告・相談）→③企業等へのプレゼンテーション→④制作物納品 コンペの場合は、①該当コンペへの応募→②制作（中間経過報告・相談）→③結果報告 必要により、ゲストのプロジェクト担当講師を招聘します。なお抄確認に対して応答がない場合は、授業放棄と見做す場合があります。</p>								
授業方法	<p>実践的な制作中心の授業となります。基本的なアプリケーション等の指導はありません。</p> <p>他の授業で学習したことや、各自が必要に応じ調べたことを実践の中で応用し、学びを進めます。</p>								
授業目標	知識・創意・観点	他授業での学びや、自身で経験やリサーチを応用できる							◎
	技能・成果	求められているものに対し、制作物を通し、的確に回答することができる							◎
	意欲・自主性・姿勢	主体的に制作を進めることができる(不明なことがあれば、担当教員に問い合わせることができる)							◎
	目的意識・共感性	-							
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)		
	制作物		25	25	30	-	80		
	制作物過程		-	-	20	-	20		
	合計(点)		25	25	50	-	100(点)		
評価の特記事項	<p>成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。</p> <p>制作過程・制作物を通した評価となります。制作過程とは、オリエンテーションへとプレゼンテーションへの参加とその取り組み姿勢(質問力)などを指します。</p>								
テキスト・教材	必要により配布								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
1回	オリエンテーション(課題説明など)								
2～7回	制作								
8回	プレゼンテーション/結果報告								
備考									
時間外での学修	プレゼンテーションを受けたあとは、各自による制作(個人・グループ)となります。課題提出期限までに間に合うよう完成に向けて制作を続けます。								
講師の実務経験と授業の関係	デザイン業務における打ち合わせから、納品までの流れを、実践的に学ぶ。								
受講生へのメッセージ	制作が中心の授業で、その成果は実際に社会で活用される可能性もあります。やりがいを感じる事ができる授業です。また進捗確認に対して応答がない場合は、授業の放棄と見做す場合があります。								

授業科目名	美術学習論実習A・B・C・D		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	全科共通	1年次以降	3(90)
必修・選択	選択	その他履修条件	A…全科の1年次以降 / B…全科の2年次以降 / C…VD3・CDの3年次以降 / D…CDの4年次に配当					
開講期	通年	代表曜日・時限	土3・4	資格対応	—			
担当教員	ながはり朱実・小林勝彦・松本小百合・矢作恵・青木忠史・樋口杏					講師の実務 経験	美術家 20年 イラストレーター 以上 グラフィックデザイ ナー	
授業概要	長野美術専門学校付帯事業である「ながのこども美術学校」のスタッフとして受講します。 学期(6～12歳)の子供達の純粋な表現に触れる場所で自然や、さまざまな素材、ものに触れたり、「デザイン」「アート」「美術トレーニング」による課題と一緒に考えることにより、感情や情緒を育み、創造的で、個性的な心の働きを豊かに、絵や形で表現することの手助けや、道徳的な意識や価値観を養います。また、学生主体により取り組む講座日を設け、それを経て得た体験から、社会とのつながりを持つワークショップの場においても、参加する人の為に課題などの作り方を考える事や運営に生かしていきます。							
授業方法	講座前後30分を設営準備、後片付けの時間とする計3時間の授業となり、講座中は子ども達のサポートをします。設営準備では当日の内容確認ミーティングを、後片付けでは当日の反省会等を毎回行い、講師とスタッフ間の連帯を大切にすることにより、スタッフとしての講座運営を円滑にします。							
授業目標	知識・創意・観点	授業が円滑に進められサポート出来る思考や判断力、社会性、コミュニケーション力を身につける					◎	
	技能・成果	課題を理解してわかりやすく子ども達に説明する事や、子ども達の表現が出来るように導く力を身につける					◎	
	意欲・自主性・姿勢	子供達と同じ課題を制作し講習会おこなうことや、講師とスタッフとの反省会から自ら課題を見つけ次へとつなげる					◎	
	目的意識・共感性	基本的な美術用具の使い方、本校で学んだ美術知識。学期の社会生活に必要な基礎的知識。送迎時における保護者との関わり方を理解する					◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作サポートのプロセス		10	10	10	10	40	
	受講態度(出席等を含む)		10	20	20	10	60	
	合計(点)		20	30	30	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カトン、カッター、クリップ、羽ぼうしなどのデッサン用具、色彩用具。テキストは必要により配布。カリキュラムにより各自用意できるものは各自で用意します。 ※専用エプロンの購入が必須になります。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
4月～3月	各講座カリキュラム表参照・各課題、子供達の表現がしやすい授業を心がける							
備考	各開講日の日程や詳細な内容などは別途配布する「ながのこども美術学校 カリキュラム」に依ります。							
時間外での学修	本校での授業からそれぞれの技術・知識をよく学んでおきましょう。課題によってデジタルカメラやパソコンなどを使います。							
講師の実務経験と授業の関係	経験豊富な講師陣とともに開講することも造形教室における実習を通し、造形教育における一次体験の重要性を知り、ひいてはワークショップなどのイベントを企画できる力を養います。							
受講生へのメッセージ	子ども達は、私たちの事をよく見ています。社会性のある言動や行動、コミュニケーションを心がけましょう。							

授業科目名	グラフィックデザイン基礎A		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	全科共通	1年次	1(30)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木1・2 金1・2	資格対応	—			
担当教員	山崎澄子・小林健太郎						講師の実 務経験	20年 以上 グラフィックデ ザイナー
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ Illustratorの使い方を習得する ・ 印刷物を制作するためのノウハウを習得する ・ 必須課題/Macミニテスト、トレース 							
授業方法	Macの基本的な使い方、Illustratorの基本操作と、自分で使い方を調べる方法を講義。 動画を見ながら各自オペレーションを学ぶ。必須課題のほか、ミニ課題を提出。							
授業目標	知識・創意・観点	操作方法を学ぶだけでなく、機能を自分で発見し、手順を考えて表現にいかせる						◎
	技能・成果	Mac基礎、Illustrator操作						○
	意欲・自主性・姿勢	動画を見ながらミニ課題を作成。または自分で考えて進められる						◎
	目的意識・共感性	グラフィックアプリケーションやデザインに関する用語の意味を理解する						△
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)	
		制作物 2点	30	24	—	6	60	
		その他提出物	—	—	10	—	10	
		出席率	—	—	30	—	30	
		合計(点)	30	24	40	6	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～50点、可:51点～40点、不可:41点～となります。 出席率60%以上、制作物3点の提出が単位認定の基準となります。							
テキスト・教材	動画教材 必要に応じてプリント配布・送付							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	Mac基礎							
3・4回	Illustrator							
5・6回	Illustrator							
7・8回	Illustrator							
備考								
時間外での学修	課題制作が授業ないで終わらない場合は、授業時間外に進めること。							
講師の実務経験と授業の関係	2名のグラフィックデザイナー、エディトリアルデザイナーから、デザインの制作現場で必要とされるアプリケーションの「正しい」オペレーションスキルを習います。							
受講生へのメッセージ	グラフィックソフトは、クリエイティブの現場であればこの先どんな業種に進むにしても使うこととなります。絵筆やペンにかわるもうひとつの制作道具として、基本の使い方を習得しておきましょう。							

授業科目名	グラフィックデザイン基礎B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	全科共通	1年次	1(30)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木1・2 金1・2	資格対応	—			
担当教員	山崎澄子・小林健太郎						講師の実 務経験	20年 以上 グラフィックデ ザイナー
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・Photoshop・InDesignの使い方を習得する ・印刷物を制作するためのノウハウを習得する ・必須課題/レタッチ(トマト)、名刺 							
授業方法	Macの基本的な使い方、Photoshop、InDesignの基本操作と、自分で使い方を調べる方法を講義。 動画を見ながら各自オペレーションを学ぶ。必須課題のほか、ミニ課題を提出。							
授業目標	知識・創意・観点	操作方法を学ぶだけでなく、機能を自分で発見し、手順を考えて表現にいかせる						◎
	技能・成果	Photoshop、InDesignの操作						○
	意欲・自主性・姿勢	動画を見ながらミニ課題を作成。または自分で調べて進められる						◎
	目的意識・共感性	グラフィックアプリケーションやデザインに関する用語の意味を理解する						△
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)	
	制作物2点		30	24	—	6	60	
	その他提出物		—	—	10	—	10	
	出席率		—	—	30	—	30	
	合計(点)		30	24	40	6	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～50点、可:51点～40点、不可:41点～となります。 出席率60%以上、制作物2点の提出が単位認定の基準となります。							
テキスト・教材	動画教材 必要に応じてプリント配布・送付							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	Photoshop							
3・4回	Photoshop							
5・6回	名刺作成・InDesign							
7・8回	InDesign・名刺講習会							
備考								
時間外での学修	課題制作が授業内で終わらない場合は、授業時間外に進めること。							
講師の実務経験と授業の関係	2名のグラフィックデザイナー、エディトリアルデザイナーから、デザインの制作現場で必要とされるアプリケーションの「正しい」オペレーションスキルを習います。							
受講生へのメッセージ	グラフィックソフトは、クリエイティブの現場であればこの先どんな業種に進むにしても使うことになります。絵筆やペンにかわるもうひとつの制作道具として、基本の使い方を習得しておきましょう。							

授業科目名	グラフィックデザイン基礎C		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)	
			実技	デザインライ ン	—	全科共通	1年次	2(60)	
必修・選択	必修	その他履修条件	—						
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	月3・4 木1・2	資格対応	—				
担当教員	寺島克己・山崎澄子						講師の実 務経験	20年 以上	グラフィックデ ザイナー
授業概要	文字組みの概念と誌面レイアウトの基本を学びます。								
授業方法	ビジネス文書のレイアウトからチラシ作成まで段階的にレイアウトを通じて文字組みの反復していきます。またDTPスキルも学びます。 本年度は小グループに分け、理解度をチーム内で高め進めていきます。								
授業目標	知識・創意・観点	読みやすい文字組み						◎	
	技能・成果	DTP操作スキル						◎	
	意欲・自主性・姿勢	目的に沿ったレイアウト						◎	
	目的意識・共感性	文字組みの						◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)		
		制作物	30	20	—	20	70		
		受講態度(出席等を含む)	10	—	20	—	30		
		合計(点)	40	20	20	20	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 文字組み、DTPスキルの理解度								
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。必要に応じてプリント配布・送付								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
1・2回	オリエン、グラフィックデザインにおける文字組みの重要性								
3・4回	文字組みの概念								
5・6回									
7・8回	小テスト								
9・10回	レイアウト基礎/実践 情報の整理								
11・12回									
13・14回									
15・16回	まとめ								
備考									
時間外での学 修	コンセプトの考案や制作物の制作を進めてください。授業内では主に、アイデアに対するアドバイスや、クオリティーのチェック、その他制作に対する助言をします。								
講師の実務経 験と授業の関 係	2名のグラフィックデザイナー、エディトリアルデザイナーから、デザインの制作現場で必要とされるアプリケーションの「正しい」オペレーションスキルを習います。								
受講生への メッセージ	授業内では文字組みの小テストを実施します。基本となる文字組の知識をしっかりと身につけ誌面レイアウトに反映しましょう。								

授業科目名	ビジュアル表現		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	全科共通	1年次	1(30)
必修・選択	必修	その他履修条件	前半(4/20~4/28)は集中授業として開講 後半(5/9~6/27)は通常授業として開講					
開講期	4月~6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	[前半]火~金1・2 [後半]火4	資格対応	—			
担当教員	相澤徳行						講師の実務 経験	15年 アートディレク 以上 ター
授業概要	視覚造形の基礎を学びながら、個性的な発想・個性的な表現を探っていきます。授業では、紙と筆記用具ベースで実際に手を動かすこと重視し創作していきます。各回の授業のはじめには発想トレーニングをします。							
授業方法	基礎履修期のはじめと終わりの2期に分けて行う集中講座となります。授業内ではテーマごとにテキストを配布し、それに基づき講義と実技演習を行います。キャンパスを出て「取材」をすることもあります。							
授業目標	知識・創意・観点	既成概念に縛られない構想法による自由で柔軟な発想を身につける						◎
	技能・成果	発想を制作物に落とし込む力を身につける						○
	意欲・自主性・姿勢	一次的な造形試行(実際に観る、調べる、実際に手で素材を探るなど)から創造的動機を引き出す力を身につける						◎
	目的意識・共感性	一次的な造形試行の必要性を理解する						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
		制作物	40	10	—	—	50	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	40	10	50	
		合計(点)	40	10	40	10	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点~80点、良:79点~70点、可:69点~60点、不可:59点~となります。							
テキスト・教材	授業時に必要なテキストは配布します。 紙、筆記用具、その他制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	ビジュアル表現とは 選挙ポスター風自己紹介カードを作成し自分をモチーフに表現してみる							
2回	色 「春の色」をテーマに素材を探す感性を養う							
3回	形 簡単な紙工作の中で個性的な発想を競い養う							
4回	構成 簡単な図形を使いながら構成力を養う							
5.6回	発想 自由な視点からのスケッチ/ひらがなのある風景写真「固定概念に囚われない発想」と「機能するアイデア」							
7.8回	素材 フロッタージュ(擦りだし)により、さまざまな素材感に触れる							
9.10回	色 「初夏の色」をテーマに素材を探す感性を養う							
11.12回	まとめ 新聞紙を使った共感される創作							
備考								
時間外での学修	実技系科目は、授業外にも制作を行うことを想定しています。課題は必ず完成させて提出してください。							
講師の実務経験と授業の関係	アートディレクターより出題される複数の課題を通し、全てのビジュアル表現における基礎的思考を学びます。							
受講生へのメッセージ	造形する上で重要な発想トレーニング、エクササイズです。自由に、そして柔軟に、みんなで楽しく取り組みましょう。							

授業科目名	6次デザイン A・B・C		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	○	VD・CD	2年次以降	3(90)
必修・選択	選択	その他履修条件	A…VD2・VD3・CDの2年次以降 / B…VD3・CDの3年次以降 / C…CDの4年次に配当					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	金1・2	資格対応	-			
担当教員	轟久志					講師の実務 経験	15年 アートディレク 以上 ター	
授業概要	毎年様々な現場に出向き、クライアントへの取材や現場の見学などを行います。そこからクライアントの抱える課題を探り整理し、それらをデザインワークで解決していきます。こうした実地を踏むことで、社会に必要なデザインワークの根本動機を学ぶ授業です。 本年は道の駅しなの(信濃町)の農産物プロモーションと、長野駅でのお土産プロジェクトを行います。							
授業方法	本授業はプロジェクト型学習(PBL)となります。主にグループワークで、リサーチ→課題整理→デザイン提案・プレゼン→デザイン制作→効果検証という一連のプロセスを実践の中で学びます。授業内において実地研修や実際のクライアントとのやり取りが発生します。							
授業目標	知識・創意・観点	社会における問題点を発見し、解決策につながるクリエイティブ力を身につける						◎
	技能・成果	要請に正しく応える造形を考え、制作・活用する力を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	クライアントへの取材や、現場の見学などで能動的に働きかける力を身につける						◎
	目的意識・共感性	リサーチ→課題整理→デザイン提案・プレゼン→デザイン制作→効果検証というデザインプロセスの重要性を知る						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作物およびそのプロセス		30	30	-	5	65	
	クライアントへの取材・現場での見学		10	-	15	-	25	
	受講態度(出席等を含む)		-	-	10	-	10	
	合計(点)		40	30	25	5	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要により配布。デザイン制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	オリエンテーション							
第2回～第9回	現状調査(実地研修)、企画立案							
第10回	企業へのプレゼンテーション							
第11回～第20回	デザイン制作							
第21回～第23回	デザインの使用、効果検証・まとめ							
備考	上記は予定となります。クライアントの要請や進捗状況で変更する場合があります。							
時間外での学修	クライアントの要請に基づくプロジェクト型学習は、個人またはチームごとに授業外にも行うことを想定しています。授業外に、グループでの打ち合わせや制作などで、週に5時間程度の学習を要します。							
講師の実務経験と授業の関係	地域に根ざし、その魅力を発掘してきたアートディレクターによる現場主義の実技授業。							
受講生へのメッセージ	クライアントの要請を探り、その要請に正しく答える、という正に「現場」を経験できる授業です。大変ですが一緒に楽しく学びましょう。							

授業科目名	タイポグラフィ 1		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	全科共通	1年次	1(30)
必修・選択	VD・CD必修/VA選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	水3・4	資格対応	レタリング技能検定3級			
担当教員	小林勝彦・小林健太郎					講師の実 務経験	20年 以上	アートディレ クター
授業概要	レタリングでデザインの造形法の基礎を学びます。日本語書体のレタリングを主に明朝体で行います。また文字の骨組みである字体を速く描く練習も重ねていきます。後半では英字レタリングまた、レタリング技能検定受験にも取り組み、技能の強化を図ります。							
授業方法	手本通りに鉛筆の手描きで時間をかけて成形します。字体は修正が効かないサインペン等を使って短時間で描く練習です							
授業目標	知識・創意・観点	水平垂直、曲線の自然さや形のバランスを考え、それを美しさにつなげて表す						◎
	技能・成果	形の観察力、形成力をつける						◎
	意欲・自主性・姿勢	正しく美しい形づくりへの意欲と、完成に向けた粘り強い制作態度を高める						◎
	目的意識・共感性	文字特有の造形法が広くデザイン造形に通じることを知る						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)	
		制作の質	10	10	10	10	40	
		提出物の充足	—	—	20	10	30	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	15	15	30	
		合計(点)	10	10	45	35	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。上記観点には、レタリング技能検定への取り組み状況も含まれています。							
テキスト・教材	書体サンプル集、定規一式、鉛筆(2H～2B)、PM用紙(購買でPMパッドからばら買い可)、A4PPC用紙、羽ぼうき、消しゴム、水性中細サインペン							
その他参考書	手本を配布							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	1.オリエンテーション 2.エレメントから一個の漢字							
2回	1.基準字体 2.明朝漢字							
3回	1.基準字体 2.明朝漢字							
4回	1.基準字体 2.ゴシック漢字							
5回	1.かな(ひらがな・かたかな)							
6回	試験対策講座							
7回	1.英字ロゴタイプ							
8回	1.英字ロゴタイプ 2.まとめ							
備考								
時間外での学修	実技科目は課題など時間外での制作も念頭に授業を進めます。必ず課題を提出できるように時間外でも取り組みます。また同時に試験前には各自試験対策もしてください。							
講師の実務経験と授業の関係	広告制作やシンボルデザインなどのグラフィックデザインやプランニングの実務を40年以上続け、それらの業務から得たタイポグラフィについての知見や技術を伝える。							
受講生へのメッセージ	レタリングはグラフィックデザインの基礎です。この意義を実技を通し学びましょう。そしてトレーニングに励み、この基礎技術を確かなものにしきましょう。							

授業科目名	タイポグラフィ2		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	VD・CD	2年次	1(30)
必修・選択	CD・VD3必修/VD2選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	土1・2	資格対応	レタリング技能検定2級			
担当教員	小林勝彦・小林健太郎					講師の実務 経験	20年以 上	アートディレク ター
授業概要	タイポグラフィ1の履修をふまえて創造性や、デザインの用途において書体の使用法を制作実技を通して学習する。							
授業方法	創作タイポグラフィを構想し、鉛筆の手描きからパソコン操作で仕上げます。							
授業目標	知識・創意・観点	レタリングのトレーニングを強化し、デザイン要件の理解からの文字表現方法を体験する						◎
	技能・成果	ビジュアルコミュニケーションとしての文字デザインの形成力をつける						◎
	意欲・自主性・姿勢	文字自身や文字を使った造形への意欲と、良いデザインの成立に向けた粘り強い制作態度を高める						◎
	目的意識・共感性	空きやまとまりを作るレタリングの造形法が、文字を用いたデザインに転じて発揮されることを理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)	
		制作の質	10	10	10	10	40	
		提出物の充足	—	—	20	10	30	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	15	15	30	
		合計(点)	10	10	45	35	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	書体サンプル集、定規一式、鉛筆(2H～2B)、PM用紙(購買でPMパッドからばら買い可)、A4PPC用紙、羽ぼうき、消しゴム、パソコン(Mac)、ソフト(Illustrator)							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション							
2～8回	新書体の設計(手描きレタリングをもとにアウトラインデータを作成、フォント化したのちレイアウト)							
備考								
時間外での学修	必要です。							
講師の実務経験と授業の関係	広告制作やシンボルデザインなどのグラフィックデザインやプランニングの実務を40年以上続け、それらの業務から得たタイポグラフィについての知見や技術を伝える。							
受講生へのメッセージ	レタリングで習ったことを発展させることで、グラフィックデザインの基礎を確かなものにしましょう。							

授業科目名	グラフィックデザインA・B・C			科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				実技	デザインライ ン	—	VD・CD	2年次以降	2(60)
必修・選択	選択	その他履修条件		A…VD2・VD3・CDの2年次以降 / B…VD3・CDの3年次以降 / C…CDの4年次にそれぞれ配当					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限		火3・4 水3・4	資格対応	—			
担当教員	寺島克己							講師の実 務経験	20年 アートディレク 以上 ター
授業概要	デザイン思考を深められるグラフィックデザインを演習。 ビジネスで求められるデザイン、またそのフローを学び実践します。								
授業方法	グラフィックデザインの領域を説明し、それに沿った課題演習をおこないます。 また本年度は印刷工程を学ぶ機会として印刷会社見学、印刷・製本の外注を実演します。								
授業目標	知識・創意・観点	与えられた課題に対し、どのような制作物に仕上げるかという思考や判断、その結果としての制作物						◎	
	技能・成果	ビジュアルコミュニケーションとしての制作物のコンセプトを考え、完成させる力を身につける						◎	
	意欲・自主性・姿勢	制作物への取り組み、完成させる						◎	
	目的意識・共感性	ビジネスで求められているグラフィックデザインの目的の理解						◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の方法		評価の観点	知識・創 意・観 点	技能・成 果	意欲・自 主 性・姿 勢	目的意識・共 感 性	合計(点)	
	制作物			30	20	—	20	70	
	受講態度(出席等を含む)			10	—	20	—	30	
	合計(点)			40	20	20	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 制作物の完成度はもちろんですが、ビジュアルコミュニケーションとして機能するか、という点もチェックします。それぞれ明確なコンセプトを提示してください。								
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。 制作に必要なものは各自用意してください。								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
1・2回	オリエンテーション グラフィックデザインについて/情報の整理と視覚化								
3・4回	デザインの思考 実践								
5・6回									
7・8回	エディトリアルデザイン演習/印刷の知識								
9・10回									
11・12回									
13・14回	印刷会社見学								
15・16回	講評会								
備考	印刷会社見学は先方の都合でスケジュールが変更になる場合があります。また印刷・製本代は実費となります。								
時間外での学修	コンセプトの考案や制作物の制作を進めてください。授業内では主に、アイデアに対するアドバイスや、クオリティーのチェック、その他制作に対するDTPスキルなどを助言します。								
講師の実務経験と授業の関係	アートディレクターから、実際の制作現場を見据えた様々な課題が出題され、これに取り組むことで実践的にグラフィックデザインを学びます。								
受講生へのメッセージ	目的を意識したグラフィックデザインでの表現力、クオリティを学び、就職活動へ反映してください。								

授業科目名	レイアウトデザインA		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	VD3・CD	2年次	1(30)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	月1	資格対応	—			
担当教員	小林勝彦						講師の実務 経験	20年 アートディレク 以上 ター
授業概要	目的にかなうレイアウトデザインを実践的へと基礎から学びます。							
授業方法	グラフィックデザインソフトやWebデザインソフトを用いて、多様なメディアのレイアウトデザインを実習する。							
授業目標	知識・創意・観点	レイアウトデザインの表現の豊かさについて考えを深める						○
	技能・成果	情報に合わせた書体の特定力、必要な観点からの文字組の調整力、要素の構成力をつける						○
	意欲・自主性・姿勢	文字デザインへの関心を深め、情報デザインの意義に興味を見いだす						◎
	目的意識・共感性	書体の種類やその文字組方法を知り、ビジュアル文脈による伝わり方の質を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)	
		制作の質	10	10	10	10	40	
		提出物の充足	—	—	20	10	30	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	15	15	30	
		合計(点)	10	10	45	35	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	パソコン(Mac)、グラフィックデザインソフト(Illustrator・Indesign)・エディター(テキストエディット等)、小説や論考等の書籍							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	文字組の試行							
3・4回	文字組の試行							
5・6回	ビジュアル要素の文脈構成							
7・8回	ビジュアル要素の文脈構成							
9～16回	協働でキャンペーンソールの制作に取り組み、複数メディアにわたるレイアウトデザインを実践する							
備考								
時間外での学修	必要です。							
講師の実務経験と授業の関係	広告制作やシンボルデザインなどのグラフィックデザインやプランニングの実務を40年以上続け、それらの業務から得たレイアウトデザインについての知見や技術を伝える。							
受講生へのメッセージ	ビジュアルデザインは文脈の構築です。事務文章などを見ると主に文字により文章を連ねていく順番が文脈となっていますが、広告や編集物のデザインとなると順番づけだけでは効果的な表現にはなりません。ここでも文章はやはり重要な要素で、文字で表されます。そしてそこに絵柄が入ってきますがこれは写真やイラストなどです。このように、ビジュアルデザインは字と絵を扱うデザインです。授業では、これらの配置による文脈の成立法を学びます。							

授業科目名	レイアウトデザインB		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	VD3・CD	3年次	1(30)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	火2	資格対応	—			
担当教員	小林勝彦					講師の実 務経験	20年 以上	アートディレク ター
授業概要	目的にかなうレイアウトデザインを実践的へと基礎から学びます。							
授業方法	グラフィックデザインソフトやWebデザインソフトを用いて、多様なメディアのレイアウトデザインを実習する。							
授業目標	知識・創意・観点	情報デザインの表現におけるの新しさ、豊かさについて追求する						○
	技能・成果	あらゆるメディアでのデザインに基礎となる文脈構築動機を生む						○
	意欲・自主性・姿勢	メディア使用の目的に対するデザインに意義を発見する						◎
	目的意識・共感性	情報デザインのメディアの性質を知り、ビジュアル文脈の特質を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創 意・観点	技能・成果	意欲・自主 性・姿勢	目的意識・共 感性	合計(点)	
		制作の質	10	10	10	10	40	
		提出物の充足	—	—	20	10	30	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	15	15	30	
		合計(点)	10	10	45	35	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	パソコン(Mac)、グラフィックデザインソフト(Illustrator・Indesign・Photoshop)、Webデザインソフト(XD)・エディター(テキストエディット等)							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	文字組の試行							
3・4回	文字組の試行							
5・6回	ビジュアル要素の文脈構成							
7・8回	ビジュアル要素の文脈構成							
9～16回	協働でキャンペーンソールの制作に取り組み、複数メディアにわたるレイアウトデザインを実践する							
備考								
時間外での学修	必要です。							
講師の実務経験と授業の関係	広告制作やシンボルデザインなどのグラフィックデザインやプランニングの実務を40年以上続け、それらの業務から得たレイアウトデザインについての知見や技術を伝える。							
受講生へのメッセージ	ビジュアルコミュニケーションという目的のための文字と絵柄の適切な文脈構築がデザイン、この意義の理解を深めていきましょう。							

授業科目名	ムービーメイキングA・B・C		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	映像ライン	—	全科共通	2年次以降	2(60)
必修・選択	選択	その他履修条件	A…VD2・VD3・VA2・CDの2年次以降 / B…VD3・VA3・CDの3年次以降 / C…CDの4年次に配当 また履修には「映像理論B」の履修が必須					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火 3・4 水 3・4	資格対応	—			
担当教員	中村武志・滝澤弘志・片岡辰介ほか					講師の実務 経験	15年 以上	映像クリエイター、映 像ディレクターほか
授業概要	履修生それぞれが「やりたいこと」に気づき、その後の映像制作につながる知識やプロセスをつかむ授業です。制作スキルの向上のみならず、自身の表現と向き合う力や、「他者」を想定したコンセプトづくり、またそれらを伝える力＝プレゼンテーションスキルを伸ばしていきます。これらを通し、「映像による表現で何かを語る」という映像クリエイターとしての基本的なスタンスの獲得を目指します。							
授業方法	制作中心の実技系科目です。担当講師はあくまでもサポートですので、一人ひとりが制作物のイメージを固めつつ、講師や学生とのディスカッションを通し、連動的かつ主体的に制作活動に取り組みます。 授業中に参考になる作例や技法的な工程を紹介したりしますが、基本的には授業外も含め制作を進めてください。もし疑問などがあれば授業時に聞けるようあらかじめまとめておくようにしてください。なお「実写」による制作物については、野外実習の実施も予定しています。							
授業目標	知識・創意・観点	広い視野で物事を捉え、構想し制作し完成することができるクリエイターとしての基礎力を身につける						◎
	技能・成果	基本的な構想力、制作工程を整理する力、編集力を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	視野を広げ自由な発想で主体的に制作を進める力を養う						◎
	目的意識・共感性	様々な映像の基本的仕組み、必要な最低限の工程を学ぶ						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作物		25	20	10	20	75	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	25	—	25	
	合計(点)		25	20	35	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	筆記用具、PC(主な使用アプリ:Photoshop、After Effects、iMovieなど)、その他制作に必要なもの。							
その他参考書	テキスト:大河原浩『Adobe After Effects CC マスターブック』(必要により貸出)							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
導入プログラム	「ムービーメイキング」事前オリエンテーション / ワークシートへの取り組み ※履修希望者は参加必須							
1回	映像制作における「やりたいこと」を中心したマインドマップ①の作成							
2回～5回	マインドマップ①の内容を基にディスカッションを重ねそれぞれの制作方向性をより明確化したマインドマップ②を作成							
6回～10回	シナリオもしくは絵コンテの制作							
11回～16回	実制作							
備考	事前オリエンテーション時に、ワークシートに取り組みます							
時間外での学修	授業内における制作期間はもちろん、実技系科目は授業外にも制作を行うことを想定しています。授業外にリサーチや制作を進め、疑問や質問があれば講師に聞けるように準備してください。							
講師の実務経験と授業の関係	映像ディレクターやクリエイターなど実務経験の豊富な講師陣から、映像の実制作課題を通し、制作の工程や精度などを学びます。							
受講生へのメッセージ	映像表現は無限なので、型にとらわれず自由な発想で、挑んでください。							

授業科目名	WEB制作1・2		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	WEBメディア ライン	—	VD2・VD3 CD	2年次以降	1(30)
必修・選択	選択	その他履修条件	「WEB理論」「WEB表現」の履修が必須					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	水1・2	資格対応	—			
担当教員	本藤佳代子					講師の実務 経験	15年 以上 WEB制作ほか	
授業概要	WEBメディアラインは、インターネット上のWebを介した表現(情報・商品・サービスの提供)に特化した学びとなります。この授業では、いよいよ「Figma」というWebデザインツールを使って、デザイン制作を学びます。Webデザインは「体験をデザインする」プロセスです。インタラクション(相互作用の体験:ユーザーの操作に応じた反応を返すこと/動作や機能)までを含めた領域のディレクションとデザインが求められます。まずは、ワークフローとスキルの基礎をしっかりと身につけましょう。							
授業方法	WEBデザインの特性とFigmaの基本操作を学んで、各自オリジナルWebサイトのプロトタイプまでを制作します。							
授業目標	知識・創意・観点	UX、UIにもとづく企画、アイデア、デザイン力						◎
	技能・成果	Figmaの基本操作、レイアウトの作成、プロトタイプの制作および共有の実践						◎
	意欲・自主性・姿勢	授業外での作業時間を含め主体的に試行錯誤を重ね完成をめざす						◎
	目的意識・共感性	ユーザーの行動を促す明確な流れを構築する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
		UXデザイン	—	5	10	10	25	
		UI、デザインデータ制作	20	20	5	5	50	
		成果物(プロトタイプ・プレゼン)	5	10	5	5	25	
		合計(点)					100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。プロジェクトブリーフ、ワイヤーフレーム、モックアップ、プロトタイプ各段階を踏んだプレゼンで総合的に評価します。							
テキスト・教材	Figmaのサインアップからインストール、日本語化までは教務より事前にレクチャーします。使い方については、授業内で基本操作をレクチャーします。							
その他参考書	この一冊ですべて身につくHTML&CSSとWebデザイン入門講座(HTMLとCSSはWebデザインにおける重要な知識です。授業では扱いませんが、おすすめの本です。学校でも購入して本棚にありますので覗いてみてください)							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	プロフィールのWebページをつくってみよう							
2回	Webサイトのサムネイルをつくるよ							
3回	企画を整理してからはじめよう							
4・5回	ワイヤーフレームに挑戦しよう							
6・7回	モックアップを完成させよう							
8・9回	プロトタイプを愉しもう							
10回	プレゼンと講評で締めるよ							
備考	段階を踏んで授業を進めます。授業をスムーズに進めるため次の授業までに前回分を確実に仕上げていきましょう。							
時間外での学修	Figmaの使い方							
講師の実務経験と授業の関係	webメディアの企画、制作、運営を手懸けてきた実務経験に添って、特別講師招聘も合わせて、現実的な授業を展開します。							
受講生へのメッセージ	新しく覚えること、繰り返し慣れが必要なこともたくさんあります。自分が何のために学んでいるのか、目的意識を持って、愉しんで取り組みましょう。最終日のプレゼンにはラインの他の講師も参加します。							

授業科目名	写真表現A・B・C		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	映像ライン	—	全科共通	2年次以降	2(60)
必修・選択	選択	その他履修条件	A…全科の2年次以降 / B…VD3・CDの3年次以降 / C…CDの4年次に配当 履修には「映像理論B」の履修が必須					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木 1・2 金 1・2	資格対応	フォトマスター検定3級			
担当教員	金井真一・大井川茂兵衛ほか					講師の実務経 験	15年 以上	フォトグラ ファー
授業概要	デジタルワークとアナログワークの2つの切り口から写真というメディアにおける表現を学びます。 デジタルワーク：デジタルカメラによる撮影やスタジオ機材の使用についての実習、成果発表としての写真展の開催など アナログワーク：モノクロフィルムで撮影、現像作業を体験 またフォトマスター検定試験(11月予定)過去問題集を参考に3級以上の合格を目指します。							
授業方法	デジタルワーク：講義にはじまり「露出」「スタジオライティング」「RAW現像」等の実習 アナログワーク：フィルム現像と印画紙焼き付け等の暗室作業にかかる実習 またこれらに加え、写真集の制作にあたっては外部講師などを招聘する予定							
授業目標	知識・創意・観点	被写体と向かい合い撮影から制作まで、見る人に伝わる表現						◎
	技能・成果	露出や色調整、構図						◎
	意欲・自主性・姿勢	撮影、現像、作品作りへの取り組み						◎
	目的意識・共感性	基本的な写真原理への理解						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作物		10	10	10	10	40	
	撮影機材取り扱い		—	15	—	10	25	
	制作物完成までのプロセス		10	15	—	—	25	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	10	—	10	
	合計(点)		20	40	20	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	フォトマスター検定事務局『フォト検 過去問題の解答と解説』問題集、検定受験料。 その他、現像用薬品、撮影機材、その他制作費など、授業内の活動により都度購入が必要です。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	[デジタル]露出の原理/デジタルカメラの扱い方/モチーフ①の撮影実習:金井真一先生							
2回	[デジタル]露出の原理/デジタルカメラの扱い方/モチーフ②の撮影実習:大井川茂兵衛先生							
3～7回	[デジタル]個別制作							
8回	[デジタル]デジタルワークまとめ							
9回	[アナログ]フィルム現像・暗室作業の概要 説明/フォトマスター検定の受験にむけて							
10～15回	[アナログ]個別にフィルム現像・暗室作業体験 / 検定対策講義							
16回	[アナログ]アナログワークまとめ							
備考	講師の登壇日程については、都度変更となる場合があります。 「スタジオワーク」開講時期と写真展の開催時期・方法については現在調整中です。 履修人数により、スケジュールは変動します。またB・C履修生については、それぞれの制作方向性に併せ、別途スケジュールとなる可能性があります。							
時間外での学修	撮影、現像作業、写真集制作等、作業の進捗に併せて時間外での取り組みが必要になる場合があります。							
講師の実務経験と授業の関係	プロのフォトグラファーから、アナログとデジタルカメラの原理、撮影方法など、実技を通して学びます。							
受講生へのメッセージ	映像をやりたい人も、写真の知識は必要だと思います。費用もかかりますがこの授業で経験出来る事を将来への糧にしてください。							

授業科目名	イラストレーションA・B・C		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	イラストレーションライン	—	全科共通	2年次以降	1(30)
必修・選択	選択	その他履修条件	A…全科の2年次以降 / B…VD3・CDの3年次以降 / C…CDの4年次に配当					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木1・2	資格対応	—			
担当教員	大橋佳世子・渋沢恵美					講師の実務経験	15年以上	イラストレーター
授業概要	明確な制作物の設定をすることで、イラスト制作の意義を高め、幅広く考える力をつけ、自分らしい表現方法を確立していきます。また、制作において使用機材・画材の研究をし、素材感や表現方法についての知識と理解を深めます。							
授業方法	課題の提示/制作/中間プレゼン/ブラッシュアップ/提出・講評							
授業目標	知識・創意・観点	イラストを通して情報を伝える力、表現力を身につける						◎
	技能・成果	デジタルコミュニケーションの幅広い用途に用いられる平面的な表現方法を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	作品への取り組み意欲及び態度。丁寧な制作						◎
	目的意識・共感性	基本的な画材の特性や使い方を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
		制作物及び提出物	30	20	10	10	70	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	20	10	30	
		合計(点)	30	20	30	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	使用機材・画材は各自で用意する							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	[制作1] オリエンテーション/課題の提示							
2回	[制作1] 中間プレゼン							
3回	[制作1] 講評会		[制作2] 課題の提示					
4回	[制作2] 中間プレゼン							
5回	[制作2] 講評会		[制作3] 課題の提示					
6回	[制作3] 中間プレゼン							
7回	[制作3] 講評会		[制作4] 課題の提示					
8回	[制作4] 中間プレゼン							
9回	[制作4] 講評会・まとめ							
備考	1回、3回、5回、7回、9回は登校授業を予定しています。2回、4回、6回、8回は配信授業の予定です。							
時間外での学修	授業内における制作期間はもちろん、実技系科目は授業外にも制作を行うことを想定しています。授業外にリサーチや制作を進め、疑問や質問があれば講師に聞けるように準備してください。							
講師の実務経験と授業の関係	イラストレーターによるデジタルコミュニケーションツールとしての「イラストレーション」を実技を通し学びます。							
受講生へのメッセージ	社会がイラストレーターに求めているのは、「人に意図したメッセージを伝えることができる力」です。「伝わる」イラストレーションを身につけましょう！							

授業科目名	描写入門		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	VD・CD	1年次	1(30)
必修・選択	VD必修/CD選択必修	その他履修条件	CD科は「描写A」とどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月3・4 火1・2	資格対応	—			
担当教員	大橋佳世子						講師の実務経 験	—
授業概要	あらゆる造形活動の基礎となる観察力・描写力を養います。デッサンは様々な造形表現の基本的な演習です。まずは『基本形態』から透視図法や光についてなど基本的観点を身につけます。							
授業方法	デッサンの理論をまとめたテキストを配布しながら講義を行い、その後、実技実習となります。各課題作品ができたところで、講評を行います。授業全体を通して10枚程度のデッサンを完成させます。							
授業目標	知識・創意・観点	デッサンの理論からの描写法を身につける						◎
	技能・成果	観察からの描写法を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	作品への取り組み態度(一枚、一枚妥協せず完成させる)						◎
	目的意識・共感性	基本的なデッサンの理論を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作物及び提出物		20	20	10	20	70	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	10	20	30	
	合計(点)		20	20	20	40	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうき、クロッキー帳などのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布。テキストを入れる透明ファイル、直定規(30センチ)を毎回用意すること。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	描くための準備:道具の使い方などを習得する							
2回	基本形態を描く① - 六面体							
3回	基本形態を描く② - 球体							
4回	基本形態を描く③ - 円柱							
5回	基本形態の応用① - 画面構成							
6回	モチーフの形をとる - 計測方法							
7回	基本形態の応用③ - モチーフを観察して描く - 「トイレトペーパー」「球体」							
8回	課題制作④							
備考	1～5回までの授業に関しては、映像教材等を用いた配信授業です。							
時間外での学修	デッサンの理論をまとめたペーパーを配布しますので、必ず、授業外でも読み込み、用語を深く理解すること。また、各自スケッチブック等を使いエスキースなどを通し、形の取り方、影の付け方、質感の出し方などをおさらいすること。							
受講生へのメッセージ	デッサンは造形の基礎です。絵が上手になりたい人はもちろん、造形に携わる人は重要な基礎力となります。課題は必ず完成させて提出すること。							

授業科目名	描写1		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	VD・CD	1年次	1(30)
必修・選択	VD必修/CD選択必修	その他履修条件	CD科は「描写B」とどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月3・4 火1・2	資格対応	—			
担当教員	大橋佳世子						講師の実務経 験	—
授業概要	あらゆる造形活動の基礎となる観察力・描写力を養います。デッサンは様々な造形表現の基本的な演習です。入門で学んだ『基本形態』に関しての知識に基づきながら、立体感や質感、構成など三次元の空間を再現する方法を学びます。							
授業方法	デッサンの理論をまとめたテキストを配布しながら講義を行い、その後、実技実習となります。各課題作品ができたところで、講評を行います。授業全体を通して10枚程度のデッサンを完成させます。							
授業目標	知識・創意・観点	デッサンの理論からの描写法を身につける						◎
	技能・成果	観察からの描写法を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	作品への取り組み態度(一枚、一枚妥協せず完成させる)						◎
	目的意識・共感性	基本的なデッサンの理論を理解し応用できる						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法		制作物及び提出物	20	20	10	20	70
			受講態度(出席等を含む)	—	—	10	20	30
			合計(点)	20	20	20	40	100(点)
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうきなどのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布。テキストを入れる透明ファイル、直定規(30センチ)を毎回用意すること。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	モチーフを描く① - 「ワインの瓶」「コップ」							
3・4回	モチーフを描く② - 「大根」「レンガ」							
5・6回	モチーフを描く③ - 「ブリキ缶」「ジャガイモ」							
7・8回	モチーフを描く④ - 「手」							
9・10回	モチーフを描く⑤ - 「積み木」「紙袋」							
備考	上に挙げたモチーフについては、変更となる可能性があります。							
時間外での学修	デッサンの理論をまとめたペーパーを配布しますので、必ず、授業外でも読み込み、用語を深く理解すること。また、各自スケッチブック等を使いエスキースなどを通し、形の取り方、影の付け方、質感の出し方などをおさらいすること。							
受講生へのメッセージ	デッサンは造形の基礎です。絵が上手になりたい人はもちろん、造形に携わる人は重要な基礎力となります。課題は必ず完成させて提出すること。							

授業科目名	描写2		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	VD3・CD	1年次	1(30)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	火1・2	資格対応	—			
担当教員	大橋佳世子						講師の実務経 験	—
授業概要	基礎的なデッサンからの応用。自身の想像力で平面の上に鉛筆を使って、三次元の空間を再現することをします。構想力をつけながら、「視覚伝達」の方法を考察していきます。							
授業方法	授業始めに簡単な説明と講義を行い、その後、実技実習となります。実習は、まず講師と構想などのディスカッションをし、それから描く作業へと進めていきます。各課題作品ができたところで、講評を行います。授業全体を通して4枚程度のデッサンを完成させます。							
授業目標	知識・創意・観点	想像力、構想力、描写力を身につける						◎
	技能・成果	デッサンの基礎的な理論からの応用的描写力を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	作品への取り組み態度(一枚、一枚妥協せず完成させる)						◎
	目的意識・共感性	基本的なデッサンの理論を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法		制作物・提出物	30	20	10	10	70
			受講態度(出席等を含む)	—	—	20	10	30
			合計(点)	30	20	30	20	100(点)
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうき、直定規(30センチ)などのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	課題制作①							
2回	課題制作②							
3回	課題制作③							
4回	課題制作④							
5回	課題制作⑤							
6回	課題制作⑥							
7回	課題制作⑦							
8回	課題制作⑧							
備考								
時間外での学修	課題が提示されたら必ずたくさんのエスキースを作ること。授業中完成できない作品は時間外で完成させること。未完成で提出しないこと。							
受講生へのメッセージ	デッサンは造形の基礎です。絵が上手になりたい人はもちろん、造形に携わる人には重要な基礎力となります。							

授業科目名	描画表現A		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	CD・VD3・VA3	2・3年次	2(60)
必修・選択	VD3必修、VA選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	(基)火3・4 (ゼ)火1・2	資格対応	—			
担当教員	中山徳幸						講師の実務経 験	—
授業概要	デッサンを中心とした実技授業です。人体のフォルムや動きにみえる骨と筋肉を理解し描写できることを目指し授業を進行します。さらに、構図や光などにこだわり一枚の画として仕上げることを目標とします。							
授業方法	まず、石膏デッサンによって描写力を養います。さらに、着衣のモデルの観察から、基本的な解剖学、人体の骨と筋肉を養います。さらに着衣のモデルの人体デッサン進めます。作品ごとに講評会を開きます。これにより自身の制作物を客観的にみる訓練をします。さらにただデッサンとしてではなく、制作を通じて構図や光などといった要素に注目し、一枚の画としての表現にこだわります。							
授業目標	知識・創意・観点	人体の骨格や筋肉図を理解し、プロポーションが取れるようになる、一枚の画として表現にこだわる						◎
	技能・成果	解剖図を理解しながら、人体を観察し描写力を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	丁寧な制作姿勢、ねばり強く描き上げられるようになる						◎
	目的意識・共感性	基本的なデッサンの理論を理解できるようになる						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法		30	20	10	10	70	
	制作物及び提出物		—	—	20	10	30	
	受講態度(出席等を含む)		30	20	30	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要に応じ配布。画材は各自で用意する							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	基礎デッサン／石膏デッサン①							
3・4回	石膏デッサン①							
5～8回	石膏デッサン②							
9～17回	人体解剖図の学習・クロッキーを含めた人体デッサン							
備考								
時間外での学修								
受講生へのメッセージ	デッサンは造形の基礎です。絵が上手になりたい人はもちろん、造形に携わる人には重要な基礎力となります。							

授業科目名	描画表現B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	CD・VD3・VA共通	2・3年次	1(30)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	金 1・2	資格対応	—			
担当教員	中山徳幸					講師の実務経験	—	
授業概要	主に人体をモチーフとしたペインティング表現を制作を通し学びます。 画材は問いませんので、各課題ごとに履修生はアナログか、デジタルかを選択します。アナログ・デジタルともに、デッサン人形を使用し、人体のフォルムや動きにみえる骨と筋肉を理解し描写できることを目指し、授業を進行します。 さらに、構図や光などにこだわり一枚の画として仕上げることを目標とします。							
授業方法	作品ごと講習会を開きます。自身の制作物を客観的にみる訓練します。デジタルの場合は必ず出力して講習に臨みます。 制作を通じて構図や光などといった要素に注目し、一枚の画としての表現にこだわります。							
授業目標	知識・創意・観点	人体の骨格や筋肉図を理解し、プロポーションが取れるようになる、一枚の画として表現にこだわる						◎
	技能・成果	解剖図を理解しながら、人体を観察し描写力を身につける						◎
	意欲・自主性・姿勢	丁寧な制作姿勢、ねばり強く描き上げられるようになる						◎
	目的意識・共感性	基本的なデッサンの理論を理解できるようになる						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	制作物及び提出物		30	20	10	10	70	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	20	10	30	
合計(点)		30	20	30	20	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要に応じ配布。画材は各自で用意する							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	人体解剖図の学習・クロッキーを含めた人体デッサン							
3・4回	人体解剖図の学習・クロッキーを含めた人体デッサン							
5～8回	デッサン人形を使用した作品制作							
備考								
時間外での学修								
受講生へのメッセージ	人体をテーマに、アナログ、デジタル問わず表現を模索し一枚の絵画を仕上げる経験をします。							

授業科目名	総合制作 1・2		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	全科共通	1・2年次	7(210)
必修・選択	必修(3のみ選択)	その他履修条件	1…全科の1年次以降 / 1…全科の2年次以降に配当 「総合制作2」は、課程修了に必要な必修科目(実技)を全て修得していなければ履修することはできない					
開講期	11月～1月(総合制作期)	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	—			
担当教員	寺島克己・大橋佳世子・中村 武志・ながはり朱実・松本直樹・本藤佳代子 ほか					講師の実務 経験	20年 以上	グラフィックデザイナー・ 映像クリエイター・イラスト レーター・芸術家ほか
授業概要	各次における学びの集大成としての制作に取り組みます。「美専修学ライン」に沿って各学科に配当されたテクニカルライン毎に出題された課題内容に基づき、アイデアを練りながら企画書を作成します。その後の制作は、この企画書が足掛りとなります。必要によって講師への相談や制作サポートを要請し、自身の制作における問題解決の補助とします。また、制作物は「学内展」を前提とし制作を進め「合同講評会」では制作物についてプレゼンテーションを行いません。充実した制作期間となるよう主体的に取り組みます。							
授業方法	個人制作が中心となります。主体的に制作を進めてください。大きな制作物や取材等でキャンパス外での制作が主となる場合は、他所での制作を登校とみなす「外部制作届」があります。必ず提出し、担当講師をはじめとした教員への相談やサポートを仰ぎ、集大成としての制作物を完成させてください。							
授業目標	知識・創意・観点	各次における修学の集大成を制作によって達成しプロフェッショナルレベルの質への到達経験をする						◎
	技能・成果	各ラインにおける課題の意図を理解し、主体的に取り組み、制作物を完成させる						◎
	意欲・自主性・姿勢	制作においてスケジュールやプロセスの管理などのセルフマネジメントをおこなう						◎
	目的意識・共感性	—						△
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	制作物		20	10	10	—	40	
	中間報告会を含むプロセス		10	10	10	—	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	10	10	—	30	
	合計(点)		40	30	30	—	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
10月下旬	総合制作期 導入プログラム(企画の立案、企画書作成、制作の開始)							
11月下旬	中間経過報告会							
1月中旬	制作物提出							
1月末	学内展、合同講評会							
備考	詳細なスケジュールについては、10月下旬の導入プログラムの際に通知します。							
時間外での学修	制作ベースの授業です。制作時間が予期せず授業時間の範疇を超えることが多くあります。授業外においても自主的、計画的に制作を行うことが求められます。							
講師の実務経験と授業の関係	合同のオリエンテーション後、履修学生はそれぞれのクラスに分かれ、各専門分野プロの講師から出題される制作課題を通し、それぞれの分野での実践的技術を高めます。							
受講生へのメッセージ	1月下旬の学内展と、合同講評会をもって成果とします。粘り強く諦めずに制作しましょう。							

授業科目名	総合研究			科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				実技	専門	—	VD3・VA3	3年次	11(330)
必修・選択	必修	その他履修条件		—					
開講期	7月～10月(ゼミ期) 11月～1月(総合制作期)	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	—				
担当教員	小林駿・小林健太郎・松本直樹 ほか							講師の実務 経験	15年 グラフィックデ ザイナーほか
授業概要	これまでの学びの集大成としての制作に取り組みます。作品、あるいは自身で企画した開発したプロダクトやサービスを販売、もしくはプロモーションを目的をした、イベントやキャンペーンとして実施してください。 必要により、講師に相談やサポートを要請し、自身の制作における問題解決の補助とします。また場合により担当講師外のゲストなどを招聘することも可能です。なお、自身の課題探究のために前半に「ライン別ゼミ」に合流することも可能です。授業内で3回の経過報告会を設ける予定です。								
授業方法	個人制作が中心となります。主体的に制作を進めてください。大きな制作物や取材等がある場合は、他所での制作を許可する「外部制作届」があります。必ず提出し、担当講師をはじめとした教員への相談やサポートを仰ぎ、集大成としての制作物を完成させてください。								
授業目標	知識・創意・観点	各次における修学の集大成を制作によって達成しプロフェッショナルレベルの質へ到達する						◎	
	技能・成果	課題の意図を理解し、主体的に進め制作物を完成させる						◎	
	意欲・自主性・姿勢	制作においてスケジュールやプロセスの管理などのセルフマネジメントをおこなう						◎	
	目的意識・共感性	—						△	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)		
	制作物		20	10	10	—	40		
	報告会を含むプロセス		10	10	10	—	30		
	受講態度(出席等を含む)		10	10	10	—	30		
	合計(点)		40	30	30	—	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。								
テキスト・教材	必要により配布								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
7月	総合研究導入プログラム[「総合制作」授業合同プログラム](企画の立案、企画書作成、制作の開始)								
9月	前期経過報告								
10月	中期経過報告								
12月	後期経過報告								
1月下旬	制作物提出								
1月末	学内展示、合同講評会								
備考									
時間外での学修	制作ベースの授業は、制作時間が予期せず授業時間の範疇を超えることが多くあります。授業外においても制作を行い計画的に取り組むことが求められます。								
講師の実務経験と授業の関係	グラフィックデザイナーやその他の経験を持つ講師から制作指導を受けます。必要により、各専門分野プロの講師を招聘し、それぞれの分野での実践的技術を高めます。								
受講生へのメッセージ	学びの集大成として、丹念にそして誠実な取り組みと、これまで培ってきた能力のすべてを傾けた制作を期待します。								

授業科目名	プロモーションワークA・B・C・D		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	総合	—	全科共通	1・2・3・4年次	4(120)
必修・選択	必修(C・Dは選択)	その他履修条件	1…全科の1年次以降 / 1…全科の2年次以降 / 3…VD3・CDの3年次以降 / 4…CDの4年次に配当 AとBの履修には、それぞれ「総合制作1」と「総合制作2」の履修が必須					
開講期	12月～3月	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	—			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	自分の制作物を伝える場である「美専展」の計画、及び運営を行います。学生間でチームをつくり、協働して展覧会を開催します。							
授業方法	学生主体による授業運営が基本です。活動全体のスケジュールやチームの具体的な活動内容については、各チームの企画・計画に依ります。 必要に応じてスポット講師の招聘や、学校側との打ち合わせを行います。							
授業目標	知識・創意・観点	公共性の高いプロモーションと、連帯感あるチームワークに必要な思考様式を形づくる。						◎
	技能・成果	プロモーションやチームマネジメントに必要なスキルを、実働の中で身につける。						◎
	意欲・自主性・姿勢	自身の「目標」と「役割」を意識し、各チームの活動に主体的に参画する。						◎
	目的意識・共感性	大規模なクリエイティブワーク実施におけるプロモーションとチームワークの重要性を理解する。						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	評価方法							
	ポートフォリオの提出		10	10	—	—	20	
	グループワーク		10	20	10	—	40	
	受講態度(出席、取り組み姿勢、自己評価等)		10	—	20	10	40	
合計(点)		30	30	30	10	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 2/3以上の出席を前提に成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 自身の設定した目標達成までのプロセス、所属するチームの活動への主体的な取り組みの度合、また事後のふりかえりも評価に加えます。							
テキスト・教材	・美専展におけるチーム活動に必要な費用(出資金)が、学生間で集金されます。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	授業目的の確認、サブタイトルの決定							
第2回	美専展企画書の読み合わせ、TEAM与件の発表、サブタイトル実現のためのアイデア出し							
第3回	役割発表、TEAMの目標設定							
第4回	TEAM引き継ぎ、ガントチャートの作成							
第5回～第29回	計画及び準備、美専展実施、報告会準備							
第30回	美専展報告会							
備考	1年次は授業期間中に履歴書用写真の撮影を行います。撮影費がかかります。							
時間外での学修	基本的に授業内での活動が主となりますが、チーム毎の企画、計画によっては授業時間外の活動も必要な可能性があります。							
受講生へのメッセージ	・制作物を「どのように見せるか」は「どのようにつくるか」と同じくらいに重要な考え方です。将来、クリエイターとして活躍するには必須の マインドでもあります。この機会にぜひ身につけましょう。 ・様々な仲間との関わり合いの中で自己理解を深め、多くのことを積極的に学び取って欲しいと思っています。							

授業科目名	プロモーション講座A・B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	総合	—	全科共通	1・2年次	3(90)
必修・選択	条件付き選択必修	その他履修条件	AとBの履修には、それぞれ「総合制作1」と「総合制作2」の履修が必須					
開講期	12月～3月	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	—			
担当教員	依田由美子・小林駿						講師の実務 経験	—
授業概要	「プロモーションマインドの発芽」にむけ、まずは自分の学びの成果を「どのように見せるのか」ということについて学びます。ポートフォリオ制作を基本の取り組みとしながら「美専展」などの機会を活用して総合制作での制作物をプロモーションすることもできます。また「美専展」については、その計画及び運営にも参加が可能です。その開催にむけて自分らしく協働していくことができます。							
授業方法	主に自身のポートフォリオ制作や自身の制作物を題材に、プロモーションマインドの質の向上に取り組みます。また「プロモーションワーク」の履修生による企画に参加し、必要な提出物にも取り組む。							
授業目標	知識・創意・観点	質の高いプロモーションのための思考様式を形づくる。						◎
	技能・成果	プロモーションに必要なスキルをポートフォリオ制作などの活動の中で身につける。						◎
	意欲・自主性・姿勢	自身の「目標」と「役割」を意識し、美専展に向けた活動へ積極的に参加する。						◎
	目的意識・共感性	大規模なクリエイティブワーク実施におけるプロモーションとチームワークの重要性を理解する。						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・創意・観点	技能・成果	意欲・自主性・姿勢	目的意識・共感性	合計(点)	
	ポートフォリオの提出		20	20	10	10	60	
	美専展の運営・企画への参加や作品の展示		10	—	10	—	20	
	受講態度(出席、取り組み姿勢、自己評価等)		—	10	10	—	20	
	合計(点)		30	30	30	10	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。2/3以上の出席を前提に成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。授業期間内に開催されるポートフォリオ講座への参加は必須です。自身の設定した目標達成までのプロセス、美専展に向けた活動への積極的な取り組みの度合、また事後のふりかえりも評価に加えます。							
テキスト・教材	・ポートフォリオ制作や制作物の展示に必要な素材・備品は基本的に自分で準備してください。 ・「美専展」に作品を展示する場合は、主に会場費が「プロモーションワーク」の履修生により集金されます。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	授業目的の確認、サブタイトルの決定							
第2回	役割の決定、チームの計画案作成							
第3回	ガントチャートの作成							
第4回	ポートフォリオ講座							
第5回～第29回	ポートフォリオの制作、美専展準備							
第30回	美専展報告会							
備考	1年次は授業期間中に履歴書用写真の撮影を行います。別途写真代が必要になります。							
時間外での学修	基本的に授業内での活動が主となりますが、企画、計画によっては授業時間外の活動も必要な可能性があります。							
受講生へのメッセージ	・制作物を「どのように見せるか」は「どのようにつくるか」と同じくらいに重要な考え方です。将来、クリエイターとして活躍するには必須のマインドでもあります。ポートフォリオの制作や作品展示の計画を通して、ぜひ身につけましょう。 ・美専展やそれをめぐるTEAM活動との関わり方は一つではありません、それぞれに自分なりのやり方で協働していきましょう。							